週刊 YEARBOOK

1959
昭和34年

日録20世紀

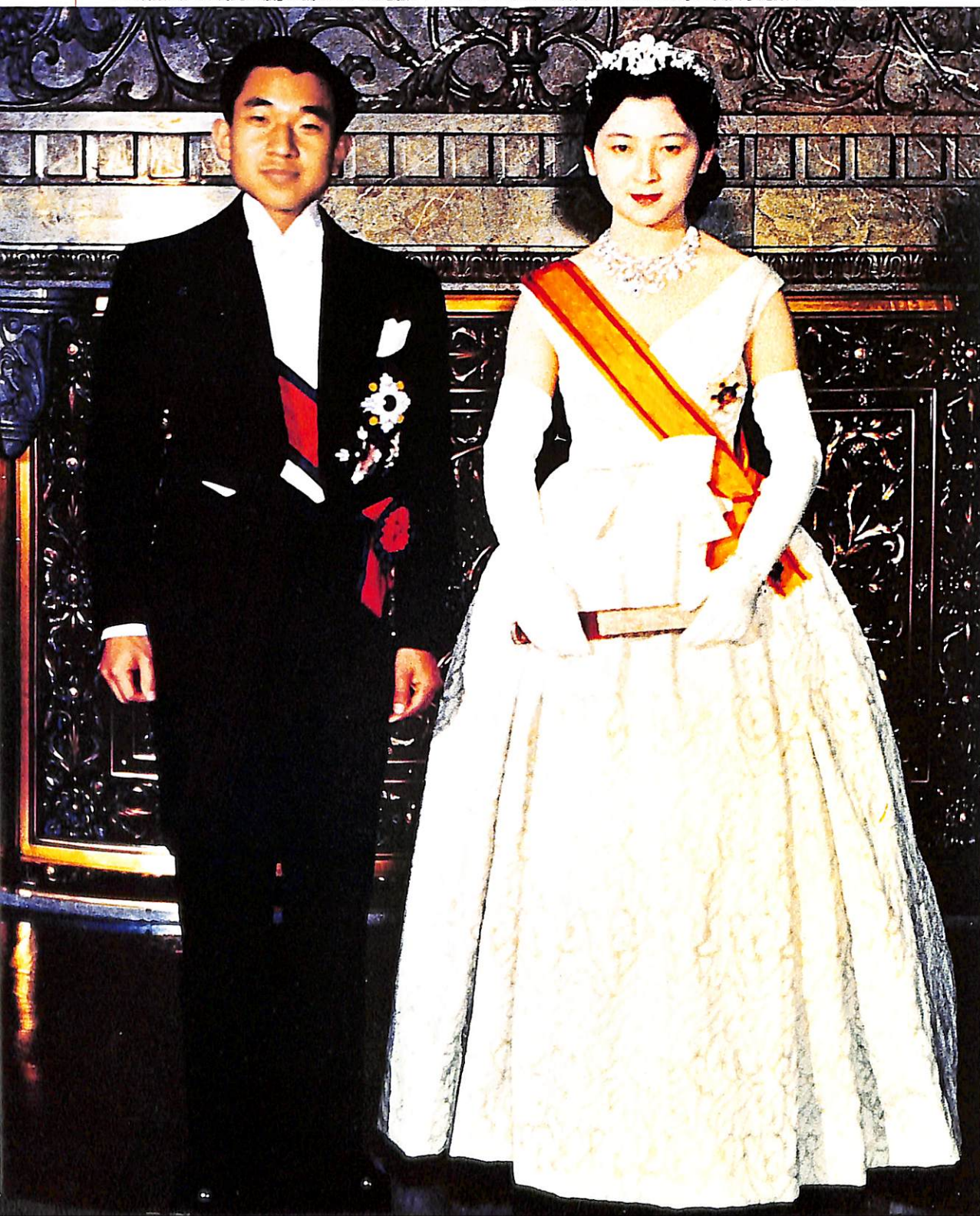
2|18
平成9年2月18日発行
(毎週1回発行)第1巻第1号
¥290
講談社

世紀のご成婚!

巨大「伊勢湾台風」の猛威
マイカー元年!わが家に車がやって来た
フルシチョフ首相"歴史的"な米国訪問

日本中がTVにクギ付け 4月10日、世紀のご成婚!

4ヵ月前のご婚約発表以来、空前の報道合戦もあって、ミッチー・ブームが巻き起こった。
4月10日、すべてが頂点に達する。景気も、この戦後最大のヒロインが登場した前年後半から急カーブを描いて上昇。物資も情報も豊かな"大衆社会"状況が到来したのである。

▼ご成婚当日、「朝見の儀」に備えて、燕尾服、ローブ・デコルテに着替えられた皇太子と美智子妃殿下。 宮内庁提供

馬車行列の完全中継に、テレビ三〇局が協力態勢

昭和三四年四月一〇日。国民の休日となったこの日、東京は前夜から降り続いていた雨が早朝にあがり、雲ひとつない快晴となった。

午前六時二〇分、宮内庁から皇太子の使者が東京・五反田の正田邸に到着。山田康彦東宮侍従長が、両親と一緒に客間で出迎えた正田美智子さんに、「殿下の命によりお迎えに参りました」と告げた。これが世紀の祭典"皇太子ご成婚"のドラマの幕開きだった。

民間から天皇家に嫁がれるのは美智子さんが初めて。お二人のご婚約が発表されたのは前年一一月二七日。美智子さんの愛らしく清楚なお姿は日本中の女性の憧れの的となり、ヘアバンドやカメオのブローチが流行し、ミンクのストールも話題となった。以後、四ヵ月にわたって日本全国に"ミッチー・ブーム"が巻き起こった。また、お二人が恋を実らせたという報道が、一層庶民の皇室への親近感を募らせた。皇太子自身、学習院のクラス会に出席した折、同窓生の共同通信社・橋本明記者にはにかみながらこう胸

読売新聞社 吉田利雄

日本中がＴＶにクギ付け
4月10日、世紀のご成婚！

▲4月18日午後、ご結婚報告のため伊勢神宮の内宮御正殿に向かう。 朝日新聞社

▲ミッチー・ブームとともに、テニスウェアがファッションとして流行した。 朝日新聞社

▲オレンジ色の束帯を着用して正装された皇太子と、十二単姿の美智子さん。 宮内庁提供

▲昭和33年11月27日、宮中参内のため両親とともに自宅を出る美智子さん。 読売新聞社

▲昭和33年12月6日、3ヵ月半ぶりにテニスを楽しむお二人。東京・麻布の東京ローンテニスクラブにて。 「女性自身」提供

日本中がＴＶにクギ付け
4月10日、世紀のご成婚！

宮内庁提供

「ミッチー語録」

●昭和33年11月27日、ご婚約発表の日の記者会見で。
「ご誠実で、ご立派で、心からご信頼申し上げ、ご尊敬申し上げていかれる方……」

●昭和35年9月15日、ご結婚1年余の記者会見で。
「やはり、むずかしいと思うこと、つらいと思うこともいろいろありました。いつになったら慣れたと言えるか、見当もつきません。八方ふさがりと思うこともありますが、方々にぶつかっているうちに、妥協ではなくて新しい道が開けます」

●昭和53年10月、浩宮様のご結婚相手について。
「あれこれ希望することは、これからお上がりになる方にひとつの決まった枠を与えるようなことになるので、控えたく思います。ただ、伝統の世界は奥行きの深い世界ですので、気長に経験を積み重ね、何ごとも温かくはぐくみ育てる方であっていただければと、それだけを考えています」

●平成6年10月20日、満60歳のお誕生日に。
「だんだんと年を加えていくことに、少し心細さを感じますが、身に起こること、身のほとりに起こることを、できるだけ静かに受け入れていけるようでありたいと願っています」

の内を明かされている。

「初めは客観的に出発したんですよ。いろいろな女の人の中から、こちらの条件に合った人を選んでいって彼女が出てきた。それからだんだん後半になって、それが恋愛になったわけだ」（「東奥日報」昭和三四年四月八日）

日本全国が祝賀ムードに包まれる中、粛々とご成婚の儀式は進んでいった。午前一〇時、皇居内・賢所内陣にて結婚の儀。最初に皇太子が、続いて美智子さんが神酒をほして結婚が成立。この瞬間、正田美智子さんは「皇太子明仁親王妃美智子殿下」となった。

午後二時、仮宮殿西の間で天皇・皇后に結婚の挨拶（朝見の儀）をすませた後、午後二時三〇分、宮内庁玄関から新居、東宮仮御所まで馬車列が出発。先頭に儀礼服の警視庁騎馬巡査二騎、少し間をおいて馬車列本体の三六騎が続く。二時三三分、皇太子・美智子妃の六頭立てのオープン馬車が二重橋を渡った。

「局からは、センセーショナルな放送にならないようにと言われていましたので、淡々とした実況を心掛けました。馬車列が広場にさしかかると、日の丸の小旗を手にした人々からバンザイの声が沸き起こり、中には感きわまって泣き出す人もいましたね」

と、当日、二重橋前広場で実況にあたった元NHKアナウンサー・大塚利兵衛氏（七三）は回想する。

沿道には、皇太子・美智子妃の馬車列のパレードを見ようと五三万人（警視庁調べ）が詰めかけ、押し合いへし合いで重傷二人、軽傷四〇人が出たほど。

一方、世紀の祭典をテレビで見ようと、一年前には保有台数が九一万台にすぎなかったテレビ受像機が結婚式直前の四月三日には二〇〇万台を突破。テレビ各局も約一五〇人のスタッフを投入。テレビ放送開始以来という大規模な中継態勢を敷いた。参加三〇局が器材や人員を提供しあって三つのチームに分かれ、皇居から東宮仮御所までの沿道約九キロに十数カ所の中継地点を設けてパレードを完全中継。この中継放送を見た人は全国で一五〇〇万人にも達した。

開かれた皇室へ美智子妃がもたらした改革の数々

民間から天皇家に入った経緯もあり、美智子妃には、少しでも国民に近い皇室をという願いがあった。それまでの皇室のしきたりを改めなければならないこともあったが、美智子妃は皇太子の協力を得てさまざまな改革をもたらした。

乳人（めのと）制を廃止して母乳で育てられ、また、お子様たちを手元に置いて育てられた。それまで親子別居がしきたりだっただけに、この親子同居は、皇室史上で画期的な革命だった。また、お子様との楽しい思い出をモチーフにした『はじめてのやまのぼり』（至光社刊）などの絵本を発表なさったりもした。国民は、キッチンに立たれた美智子妃や、ほほえましい家族団欒（だんらん）を伝えるお写真を拝見するたびに、ご一家への親愛感を深めていったのである。

熊谷元一

●日本中祝賀ムード一色のこの日、東京銀座4丁目の「三愛」にお二人の写真が飾られたのをはじめとして、いたるところで慶祝の日の丸が掲揚された。

◀左折し四谷見附に向かう馬車列。半蔵門の都電停留所を通過する際、最後尾の馬がのめって、警視庁騎馬隊の巡査が落馬するハプニングがあった。

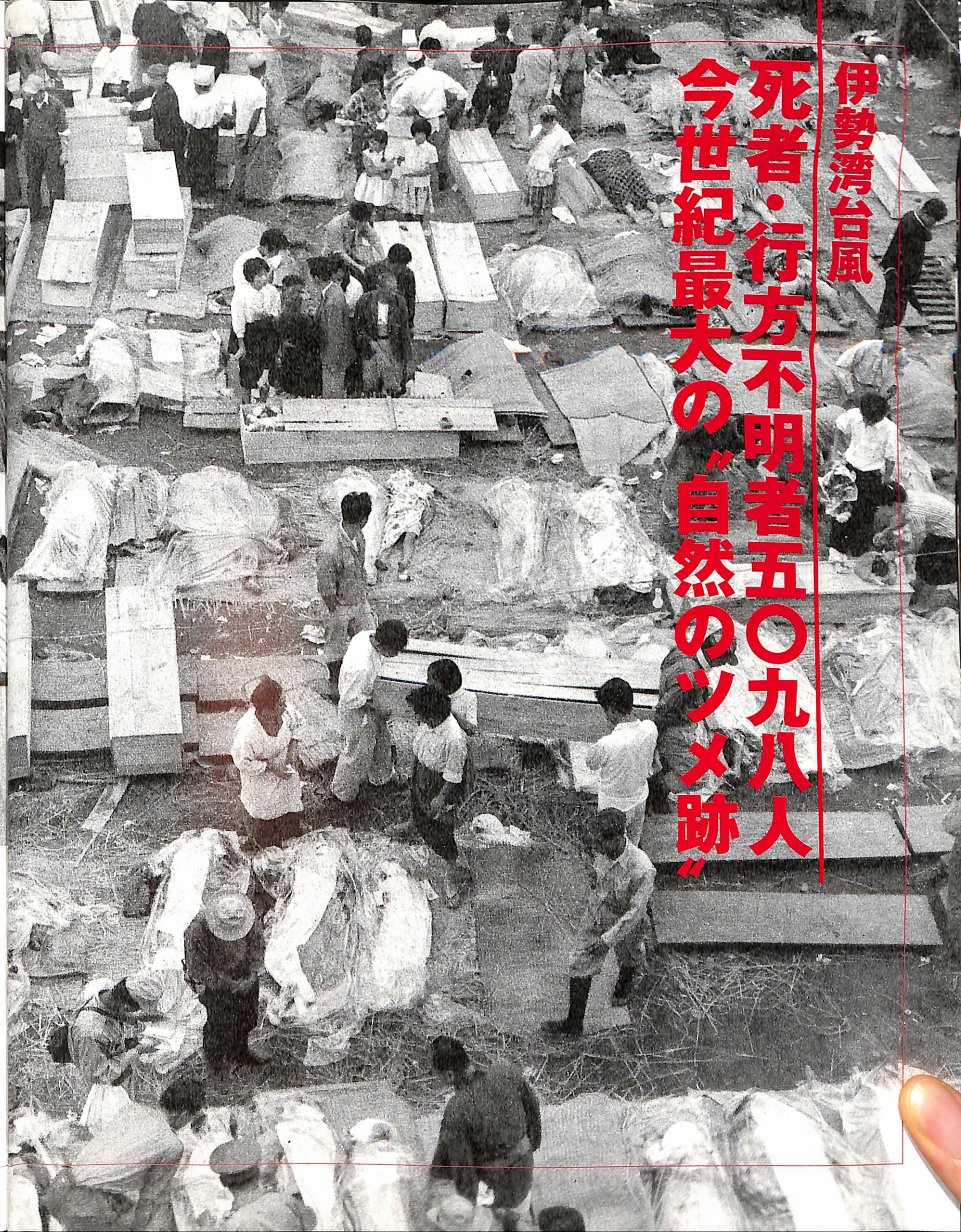
朝日新聞社

▶特設スタンドにひしめく報道陣。中継に使われたテレビカメラは計一〇八台、沿道には移動用のレールが敷かれ、パレードを完全中継した。

伊勢湾台風
死者・行方不明者五〇九八人　今世紀最大の“自然のツメ跡”

地球の裏側で、米ソ首脳が歴史的会談をしていた頃、日本列島は一個の猛烈な台風に襲われ、二〇世紀最大の気象災害を歴史のページに刻んでいた。伊勢湾台風――わずか五時間ほどで本州を縦断していった、この猛威が残したものは何か。

▼台風が去って3日後の9月29日夜、港区南陽町で泥海の中に孤立し、助けを求める被災者。地域によっては護岸の決壊で、6メートルも浸水、被災後1ヵ月以上も水が引かなかった家もある。

朝日新聞社

▶名古屋市南区役所の庭に並べられた遺体。棺が間に合わないため、布やビニールも多く使われた。高潮により押し流された貯木場のラワン材が人々を襲い、打撲や圧迫による犠牲者も多かった。

朝日新聞社

記録的な高潮が街を泥と死体の漂う海に変えた

後に伊勢湾台風と名づけられる台風一五号は、九月二六日午後六時すぎ、紀伊半島の潮岬付近に上陸。上陸時の中心気圧は九三〇ヘクトパスカルと、室戸台風（昭和九年）の九一一ヘクトパスカル、枕崎台風（昭和二〇年）の九一七ヘクトパスカルに次ぐ観測史上三番目の数値を記録した。台風は、その後、半径三五〇キロを毎秒三〇メートル以上の暴風域に巻きこむすさまじい勢力を保ちながら、時速七〇キロで紀伊半島を北上、東海各地に深いツメ跡を残して翌二七日午前零時四五分、糸魚川河口付近から日本海へ駆け抜けた。

名古屋市は午後七時頃、暴風域に入り、まっ暗闇の停電の中で、最大風速三七メートルもの暴風雨にさらされた。折あしく満潮と重なった伊勢湾では通常の潮位より三・四五メートルも高い記録的な高潮が発生。「まるでナイアガラの滝のように、堤防の全面から海水が浸入した」（名古屋市『伊勢湾台風災害誌』）という。しかも堤防には欠陥が多く、四四ヵ所で決壊・破損が生じ、中には一キロメートル近くにわたって決壊したところもあった。逆流した海水で河川堤防も寸断され、浸水区域は海岸から遠く離れた北区にまでおよんだ。とりわけ悲惨をきわめたのは南部のゼロメートル地帯だ。南区の白水・柴田地区では近く

朝日新聞社

▲海水や下水などのまじった汚水は、臭気を発し赤痢も発生した。救助活動はボートによるしかなかったが、決定的に不足していた。南区道徳町で。
▼避難先の北区名北小学校で泣きくずれる老人。助かった被災者も、その後、生活苦に追われた。

朝日新聞社

伊勢湾台風

死者・行方不明者5098人 今世紀最大の"自然のツメ跡"

の貯木場にあったラワン材が流出、一本五～六トンもある流木が大量に押し寄せてきて、人も家も押しつぶしてしまった。

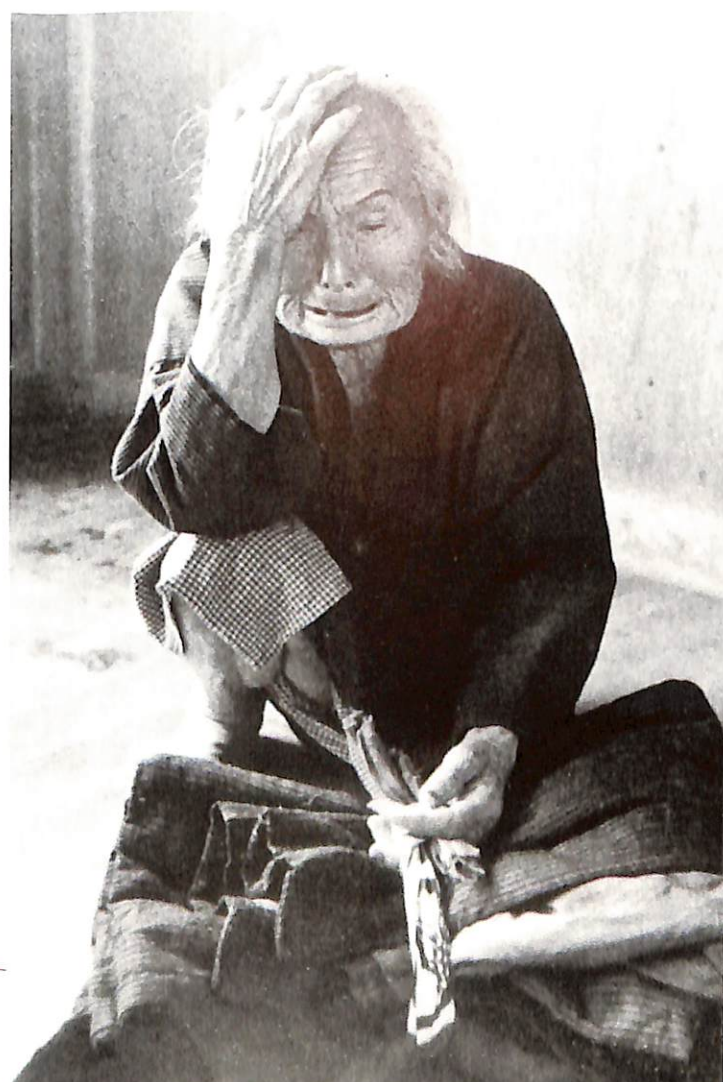
翌二七日。秋晴れの空の下に、深さ二～三メートルもの泥海に沈む無残な街の姿があった。瓦礫や流木の中におびただしい死体が漂い、家々の二階や屋根の上では一六万人が孤立していた。人々はその後飢えと疲労に耐えながら、遅々として進まぬ救援を何日も待ち続けることになる。

大きな犠牲で生まれた災害対策基本法の効力

伊勢湾台風による全国の被害は、死者・行方不明者五〇九八人、負傷者三万八九二一人、被害家屋八三万三九六五戸。犠牲者のうち七一パーセントが高潮によるものだ。

昭和二六～三五年のわずか一〇年の間に、日本では一万人以上が台風で命を失った。だが伊勢湾台風を最後に、一〇〇〇人以上の犠牲を一度に出すような被害は出ていない。ある研究によれば、台風の規模が同じでも犠牲者数は現在ほぼ一〇分の一に減っているという。単純計算では、伊勢湾台風も今なら五〇〇人。しかし「実際には、さらに一ケタ少なくなるのでは」と札幌管区気象台技術部長の大西晴夫氏は言う。

「その最大の理由は伊勢湾台風の二年後に災害対策基本法が制定され、都道府県に義務的に防災対策に取り組ませたこと。観測技術や情報伝達も発達した。以前に比べればハード、ソフトともに整備は進んだと思います。油断は禁物ですが」

防災対策で現在用いられている基準値も伊勢湾台風の教訓からはじき出されたものだ。しかし、貴重な教訓を残したというには、あまりにも大きな犠牲だった。

女たちの肖像

世界一に賭けた「美女」児島明子

稲葉真弓

今でこそミス・コンは珍しくないイベントだが、世界のトップの座につくとなると話は別である。児島明子（二二）はこの年のカリフォルニア、ロングビーチで行われたミス・ユニバース世界一の座についた幸運な女性である。昭和二八年に伊東絹子が三位になっているが、ナンバーワンの美の女王として日本人が選ばれたのは初めて。アジアでも初という快挙だった。

その女王が、インタビューの際、王冠を頭に戴きながら、女優になるつもりはないと答え、たどたどしい英語で「私はかわいい奥さんになりたい」と言ったから各国の記者たちは驚いた。「なんといじらしい」とすっかり評判になり、日本でもたちまち流行語になった。

児島明子の栄冠は、偶然がもたらしたものだけではなかった。むしろ、勝ち取ったものといっても過言ではない。というのもミス・コンには最初、姉が応募するはずだったのが、健康をそこねたために明子が代わって応募。水泳で鍛えたみごとなプロポーションが目をひき、ミス四国から準日本一に選ばれる。それからがこの人の勝ち気で独特なところなのだが、彼女は準日本一では満足せず、東京でファッションモデルをしながらさらに上をめざしたのである。

昭和三三年には東京代表に選ばれるがパレードの時の事故で日本大会には欠場。それでもめげずにモデルを続け、化粧やモードの研究をおこたらなかった。そしてこの年再び応募し、みごと世界一に輝いた。美に賭けた女の勝利というべきだろう。

読売新聞社

また児島明子の功績は、日本人に"キングサイズの美"を初めて認めさせた点にもあった。この頃の日本女性の平均身長は一五〇センチそこそこ。身長一六八センチ、体重五五キロ、バスト九三センチ、ウエスト五八センチ、ヒップ九七センチの彼女の体はまさに国際的だったのである。

明子はその後数年間トップモデルとして活躍したが、昭和四一年俳優の宝田明と結婚、「天下の美男、美女、永すぎた春に終止符」と大変な話題を呼んだ。以後主婦業に専念して三児をもうけ、「かわいい奥さん」を地でいったのだが宝田の愛人問題などから離婚。後に娘を芸能界にデビューさせたが、本人はマスコミを避けた静かな暮らしをしている。

勝者・敗者

天覧サヨナラホーマー 長嶋vs.村山、伝説の一球

阿部珠樹

六月二五日、後楽園球場の巨人対阪神戦は、試合前からいつもと違った特別なざわめきに包まれていた。昭和天皇が皇后をともない、初めてプロ野球を観戦に訪れるのである。昭和一一年に発足したプロ野球の関係者にとって、「天覧試合」は悲願ともいうべきものだった。

試合開始一〇分前に球場に到着した天皇は、コミッショナー、セ・パ両リーグ会長などを従え貴賓室に入って、グラウンドに整列した両チームナインの挨拶を受けた。選手、監督の顔は一様に緊張気味だったが、とりわけ阪神の監督で日系二世のカイザー・田中（田中義雄）の感激した面持ちは、周囲も驚くほどだったという。

試合は巨人が藤田元司、阪神が小山正明という大エースを先発させて始まった。阪神が先制すると、巨人が逆転し、阪神が再逆転すると巨人が追いつくという白熱した攻防が繰り広げられる。七回の巨人の同点劇は、この年、早稲田実業から入団した新人、王貞治のホームランによるものだった。

朝日新聞社

朝日新聞社

そして九回裏、劇的な幕切れが訪れる。阪神のマウンドには新人の村山実が上がっていた。打席には長嶋茂雄が入る。阪神バッテリーは、この日すでにホームランを一本放っている長嶋を慎重にカウント二―二に追いこんだ。四球目は決め球のフォークボール。村山は低く落として長嶋の空振りをねらったが、長嶋はつられなかった。ボール。フォークがはずれれば、勝負球はストレートしかない。村山の投じたストレートは、ややうわずり、長嶋の胸の高さに来た。長嶋のバットはそれを見逃さなかった。打球はまっすぐレフトのポール際に飛びこんだ。歓喜する長嶋のホームインも確かめず、打たれた村山は蒼白な顔でベンチに戻った。

「この感激は一生忘れません」

試合が終わった時、長嶋はかん高い声で叫んだ。長嶋の一打は伝説となった。だが、村山だけは、あの一打はファウルだったと、今も確信している。

1月

▲第41代横綱、千代の山が引退を発表（1月16日）上突っ張りを得意とし、横綱在位32場所。大型力士として人気を集めたが、けがに泣いた。幕内の成績は366勝149敗2分147休。

朝日新聞社

共同通信社

◀ド・ゴールによる第五共和政権、発足（1月8日）フランス国民の圧倒的な支持を得て前年9月に制定された新憲法を後ろ盾に、ド・ゴール「独裁」体制がスタートした。

朝日新聞社

▲不要になった枡を神社で処分（1月7日）1月1日からメートル法が施行され、尺貫法によるはかりの使用は全面禁止に。名古屋の熱田神宮では1斗枡や1升枡を集めて、神官が燃やした。

共同通信社

▲タローとジローは生きていた（1月14日）前年2月に南極昭和基地に置き去りにされた樺太犬タローとジローの生存が確認された。写真は再会を喜ぶ村山隊長。

◀パーキングメーター登場（1月26日）交通混雑緩和のため、東京日比谷と丸の内の路上に1283本設置。料金は15分10円で、無視した時はその3倍が徴収された。

◀1万円の札束を使って客寄せ（1月23日）大阪のデパートが前年12月発行の1万円札10億円分を陳列した。ちなみに、大卒銀行員の初任給は1万2700円である。

田中真知郎

昭和34年1月

1（木）●メートル法施行。度量衡法から全面切り替え。●挙母市がトヨタ自動車にちなみ豊田市に改称。
2（金）●新婚旅行で乗った全日空機に爆薬を仕掛けた男が、同機から飛び降り自殺。
3（土）●大阪市で阪急電車と市バスが衝突。七人死亡。
4（日）●ソ連第一副首相ミコヤン、米国を訪問。
5（月）●米英ソの核実験停止会議、ジュネーブで再開。
6（火）●国立競技場に秩父宮記念スポーツ博物館開設。
7（水）●「ルナ1号」が太陽周回軌道に、とソ連が発表。
8（木）●真岡市の芸者組合、お座敷拒否ストを解除。
9（金）●閣議、キューバ革命政権を承認、と決定。
10（土）●NHK教育テレビ東京放送局が開局。
11（日）●東海道線双竜ノ滝鉄橋で初の回転式橋桁交換。
12（月）●第二次岸改造内閣、発足。
13（火）●国連メコン川総合開発調査に参加する日本調査団、ベトナムに向け羽田を出発。
14（水）●皇太子明仁親王と正田美智子、納采の儀挙行。●第三次南極観測隊、樺太犬タロー・ジローの生存を確認。
15（木）●新協劇団と劇団中芸が和解、東京芸術座結成を決定。
16（金）●日本製糸協会、繭不足で三〇日の休業を決定。
17（土）●南極昭和基地と銚子無線電報局が交信再開。
18（日）●日本共産党、自主的中立路線の新方針発表。
19（月）●三井鉱山、企業再建案を組合に提示。
20（火）●東京消防庁、失火相次ぐ「電気ござ」の回収を指示。
21（水）●海上自衛隊神戸基地、神戸港でオランダ船の敬礼に答えず、抗議される。
22（木）●全国進駐軍被害者連合会、結成される。
23（金）●日本貿易振興会、前年度、日本製トランジスタラジオが米国市場の二五％を占める、と発表。
24（土）●総評・新産別などで作る労働戦線統一懇談会が初会合を開く。
25（日）●仏詩人連盟、芹沢光治良に友好国際賞授与。
26（月）●東京丸の内でパーキングメーターの使用開始。
27（火）●東京荒川区で自転車通り魔が女性一〇人を刺し逃走。被害者の中学生一人が即死。
28（水）●米大統領が日本の自衛力増強を評価。
29（木）●伊豆新島の本村議会、ミサイル試射場設置反対決議を白紙に戻す。
30（金）●社共など三〇団体、大阪府警のスパイ捜査に抗議して共闘会議を結成。
31（土）●王子製紙苫小牧工場で三五人の処分を通告。

ニュース・ファイル 1959

フォト＋日録で再現する365日

「南極で樺太犬タロー・ジローが生存」で幕を開けたこの年、最大の話題はやはり皇太子ご成婚である。児島明子がミス・ユニバースに選ばれ、長嶋が天覧試合で劇的な一打を放つなど、各界で次代を担うスターも輩出した高度成長の前夜だった。

◀皇太子・美智子妃、結婚祝賀パレード（4月10日）午後2時30分、皇居を出発したパレードは東宮仮御所まで約9キロを進んだ。沿道には53万人もの群衆が詰めかけた。ミッチー・ブームの最高潮を迎えた瞬間である。

朝日新聞社

▲小野田寛郎元少尉の母が息子の助命嘆願（2月18日）ルバング島の元日本兵、小野田氏に現地警察が射殺を命令との報道に、母たまえさんらが東京駅八重洲口で助命の署名運動を行った。

◀高倉健と江利チエミが結婚（2月16日）人気映画俳優と人気歌手の二人は、東京日比谷の帝国ホテルで、チエミの親友・美空ひばりはじめ400名を集めて挙式。新婚旅行はハワイだった。

時事通信社　朝日新聞社

▶初の国産原子力燃料（3月18日）茨城県東海村の原子燃料公社東海製錬所は、金属ウランの精錬に成功。写真は、炉から取り出された瞬間の金属ウラン。

◀カストロ、キューバ首相に就任（2月16日）バチスタ独裁政権を倒した革命軍は、1月8日、市民の大歓迎を受けてハバナ入り。カストロの首相就任を発表。

マグナム

昭和34年2月

1（日）●日本教育テレビ（NET）が本放送を開始。
2（月）●ルバング島の元日本軍少尉・小野田寛郎ら、現地人を射殺して逃亡。
●NHK、衆議院予算委員会質疑を初めて放映。
3（火）●風俗営業取締法改正法が成立。
4（水）●日本一高い宅地は東京銀座四丁目の交差点角で、坪一五六万円と国税庁が発表。
5（木）●徳川家墓地調査団、皇女和宮の墓を発掘。
6（金）●東京六大学野球で、春のリーグ戦からユニフォームに背番号の使用を決定。
7（土）●茨城県小川町で、自衛隊百里基地建設反対の町長にリコール成立。
8（日）●黒部トンネルが貫通。
9（月）●高等海難審判庁、昭和二九年の洞爺丸事故は国鉄に過失と裁決。
10（火）●大阪府立北野高校の教師一〇人が勤務評定反対のハンストに入る。
11（水）●帝人岩国工場に米軍の模擬爆弾が落下。
●広島高裁、八海事件被告・阿藤周平の保釈決定。
12（木）●農林省がブラジル農業移民を促進、と新聞に。
13（金）●警察庁、酔っ払い保護センターを設置と発表。
●在日韓国代表部、在日朝鮮人の北朝鮮帰還決定に抗議して帰還阻止、日韓会談中止を通告。
14（土）●日本原子力学会（会長・茅誠司）創立。
15（日）●第一物産と三井物産が合併。
●主婦と生活社労組、無期限ストに突入。
16（月）●キューバでカストロが首相に就任。
17（火）●政府、戦後初の外債公募で米社と調印。
●霧島山系の新燃岳が四五年ぶりに噴火。
18（水）●藤山愛一郎外相、安保条約改定藤山試案発表。
19（木）●東京電力、女子の結婚退職制を規定した労働協約を労組に通告（3月21日、撤回）。
20（金）●通産相、総評が仲介する中国産漆輸入を承認。
21（土）●北海道住友赤平礦業所でガス爆発。一四人死亡。
22（日）●政府の外国人留学制度は給費額が少なく辞退国続出、と新聞に。
23（月）●通産省電気試験所、電子英和翻訳機を公開。
24（火）●自民党の池田勇人、月給二倍論を表明。
25（水）●「昭和の巌窟王」吉田石松、名古屋高裁で再審を嘆願。
26（木）●全国自動車運輸労連、神風トラック追放大会。
27（金）●都立小松川女子高生殺害容疑の少年被告に死刑判決。
28（土）●ユーゴスラビアとの通商航海条約に調印。

週刊少年サンデー　週刊少年マガジン　創刊号　小学館発行

▲少年向け週刊誌発刊（3月17日）週刊誌創刊ラッシュの渦中に「少年マガジン」（講談社）、「少年サンデー」（小学館）が参入。2誌とも漫画は5本、あとは読み物だった。

◀▼BOACスチュワーデス怪死事件（3月10日）東京杉並の善福寺川で死体が発見された。参考人のベルギー人神父が帰国し、迷宮入りに。左は被害者の外套。

朝日新聞社

岩手日報社

▲集団就職列車第1号出発（3月26日）盛岡発上野行きに、東京など県外に就職する岩手県の中学・高校卒業生796人が乗車。人手不足のため、彼らは「金の卵」と呼ばれた。

共同通信社

◀ダライ・ラマ、インドへ亡命（3月31日）反中国武装蜂起の最中にチベットを脱出していたダライ・ラマ14世が亡命を決意した。写真左はインドのネルー首相。

▼▶清宮婚約、お相手は銀行マン（3月19日）宮内庁は昭和天皇の第5皇女清宮貴子内親王（右）と日本輸出入銀行員の島津久永さん（下）の婚約内定を発表した。二人の挙式は翌年3月10日。

朝日新聞社

昭和34年3月

1（日）●フジテレビ、本放送を開始。
2（月）●京都で新五条大橋の落成式。
3（火）●共産党書記長・宮本顕治、中国で毛沢東と会見。
4（水）●主婦連、第一回消費者ゼミナールを開催。
5（木）●京都地裁が嘘発見器を証拠採用する初の判決。
6（金）●全逓の七〇人が結婚資金支給を要求し、郵政省で座りこみ。
7（土）●国家公務員に高血圧症が急増、と人事院発表。
8（日）●赤十字国際委員会、韓国抑留中の日本人漁民一五三人釈放の斡旋に乗り出す。
9（月）●岸信介首相、防御用小型核兵器は合憲と答弁。
●北京訪問中の社会党書記長・浅沼稲次郎、「米帝国主義は日中共同の敵」と発言。
10（火）●東京杉並区でスチュワーデスの死体発見（重要参考人のベルギー人神父は六月に帰国）。
11（水）●テレビの視聴時間は中学生の二〇%が一日五時間余、と文部省調査で判明。
12（木）●次期主力戦闘機機種問題で、森脇将光が衆院決算委員会に森脇メモを提出。
●ダライ・ラマ、チベット独立を宣言して蜂起。
13（金）●旅行ブームで飛行機の予約急増、と新聞に。
14（土）●全電通、東京市外電話局に職場託児所を開設。
15（日）●新潟県大潟町で天然ガス試掘中に大量噴出。
16（月）●最高裁長官・田中耕太郎、裁判の迅速化を要望。
17（火）●「少年マガジン」「少年サンデー」、創刊。
18（水）●第一三次南極海捕鯨終了。漁獲は五〇五二頭。
19（木）●第五皇女・清宮貴子と島津久永の婚約発表。
20（金）●アジア生産性国際会議（18日～、東京）閉幕。
21（土）●第一回河口湖ラリーにオートバイ八〇〇台。
22（日）●勤労者に結核減り精神疾患増加、と新聞に。
23（月）●東京家裁の離婚調停の七三%は妻からの申し立てによる、と新聞に。
24（火）●北ベトナムからの第一次帰還者が門司に到着。
●日本基督教団、靖国神社国家護持に反対決議。
25（水）●賃上げ要求で初のタクシー全国一斉スト。
26（木）●常磐炭鉱、三〇〇〇人削減案を組合に提示。
27（金）●社会党都知事候補・有田八郎夫人、『般若苑マダム物語』の出版元を名誉毀損で告訴。
28（土）●社会党など安保条約改定阻止国民会議を結成。
●東京千代田区に千鳥ヶ淵戦没者墓苑が完成。
29（日）●東大第二次イラン・イラク遺跡調査団、出発。
30（月）●砂川事件裁判で東京地裁、米軍駐留は違憲と無罪判決（伊達判決）。
31（火）●共同通信社、通信用の伝書鳩を廃止。

朝日新聞社

▶プリンセス・ライン（4月頃）ご婚約発表の日に美智子妃が着用した、裾広がりのワンピースと白いヘアバンドなどの組み合わせが人気を呼んだ。

影山光洋

◀浪速の祝賀パレード（4月10日）ご成婚の当日、大阪で行われた祝賀行事。皇太子夫妻の写真を飾った馬車行列も登場し、御堂筋を行進した。

▼「卓球ニッポン」世界制覇（4月6日）西ドイツでの世界卓球選手権大会で、日本は10種目に優勝。荻村伊智朗（左から3人目）が大活躍した。

共同通信社

共同通信社

▶中国の新国家主席に劉少奇（4月27日）全国人民代表大会で劉少奇（写真左端）が、毛沢東（その右）に代わって新国家主席に。しかし党主席はそのまま、毛体制は不動だった。

新華社／中国通信

◀東海道新幹線起工式（4月20日）5年後の東京オリンピック前の開通をめざして、静岡県熱海市の新丹那トンネル熱海口で、国鉄が起工式を開催。十河信二総裁が鍬入れを行った。

昭和34年4月

1（水）●都内公衆電話からも市外通話が可能になる。
●東京都、風俗営業取締法施行条例を施行。深夜喫茶が姿を消す。
2（木）●アマチュア無線の試験に初めて視覚障害者も参加。
3（金）●ロンドン－東京間の定期航路にコメット4型ジェット旅客機が就航。
4（土）●米国から贈与の小麦粉半減で、小学校給食のパン代が月に一〇円値上げ、と新聞に。
5（日）●作曲家ストラビンスキーが、初来日。
6（月）●戦後初の靖国神社臨時大祭。
7（火）●北海道東部の暴風雨で、家屋全半壊一八九戸。
●大牟田市動物園で虎二頭脱走。飼育係が死亡。
8（水）●日本原子力発電、英国との技術援助協定調印。
9（木）●閣議、皇太子ご成婚特赦の規準決定。選挙違反中心に約一〇万人が該当。
10（金）●皇太子明仁親王と正田美智子の結婚式挙行。
11（土）●吹田市の千里ニュータウン建設計画を発表。
12（日）●天台宗、作家の今東光を大僧都に、と決定。
13（月）●世界在郷軍人連盟、日本郷友連盟の加入承認。
14（火）●朝日新聞、東京－北海道間で紙面電送に成功。
15（水）●最低賃金法公布。
16（木）●明治神宮外苑で皇太子ご成婚慶祝式典。
17（金）●フランスから返還された松方コレクションの絵画など三六八点を国立西洋美術館に搬入。
18（土）●警視庁、凶悪事件続発で非常体制強化を指令。
19（日）●兵庫県タクシー運転者共済組合、乗客を組合員とする方法で「白タク」営業を開始。
20（月）●熱海市で東海道新幹線の起工式。
●横浜市の山下公園の一部を米軍が返還。
21（火）●運輸省の都市交通審議会、都心の路面電車廃止を提言。
22（水）●主婦連、配給米に砂石混入の苦情が殺到したため、品質検査を開始。
23（木）●国鉄が警察官の無賃乗車を拒否へ、と新聞に。
24（金）●大蔵省、為替・貿易手続きの簡素化措置発表。
25（土）●炭労争議が中労委斡旋により五ヵ月ぶり解決。
26（日）●王貞治、後楽園球場でプロ入り初ホームラン。
27（月）●中国の新国家主席に劉少奇が選出される。
28（火）●岐阜県の御母衣ダム放水路落盤事故（26日）で生き埋めになっていた一三人を救出。
29（水）●M・モンローの「お熱いのがお好き」封切。
30（木）●科学技術庁の調査会が栄養摂取量新基準を決定。一三歳男子で一日二四八〇カロリー。

証言・あの日この日

三島由紀夫

1月25日（日）　〈われわれはもう殆ど「夜」を持たなくなってしまった。どんな秘密な遊びも、隠密な犯罪も、厳密に「夜」には属さない。明治神宮の初詣でに深夜群をなして集まる人々を、晃々と照らすライトの下に映したテレヴィジョン放送を見て、そこにももはや「夜」がなく、人人が「夜」を望みもしない状況を、私はつぶさに眺めた〉（三島由紀夫『裸体と衣裳』）

三島由紀夫の社会風俗に対する観察の鋭さには定評があった。白夜のように切れ目ない日々が続いていく現代の味気なさを、今では多くの人が口にする。三島はすでにこの時、そういう未来を見据えている。しかも原因はテレビにあると。ご成婚ブームによって、テレビが爆発的な売り上げを記録したが、それでもまだ200万台、1000万台を超すのは2年後である。　（坪内祐三）

共同通信社

朝日新聞社

▶栃若時代到来（5月17日）夏場所千秋楽、横綱同士で優勝を争う栃錦と若乃花。勝負は若乃花が勝って賜杯を手にした。両者は次の場所でも千秋楽に優勝を争い、テレビ桟敷を沸かせた。

▼昭和天皇、東京国際見本市でミニ原子炉を見学（5月5日）晴海で開かれた見本市の初日に来場され、米国原子力特設館で出力1キロワットのミニチュア原子炉の炉心模型を見学された。

▼天才林海峯、最年少昇段記録達成（5月6日）師匠にあたる呉清源の、19歳で五段昇段の記録を破る16歳五段の快挙だった。林は台湾出身、10歳で囲碁の世界に入った。

田中真知郎

▼水谷良重と白木秀雄が結婚（5月28日）ジャズ歌手とジャズ・ドラマーのカップル。式は日比谷の帝国ホテルで行われ、作家の川口松太郎が媒酌人をつとめた。

朝日新聞社

▲戦後初の国産潜水艦「おやしお」進水（5月25日）昭和32年末から、川崎重工神戸造船所で、27億円をかけて建造された。全長79.8メートル。水中速力は19ノットだった。

昭和34年5月

1（金）●東京都の人口、九〇〇万人突破（九〇二万一三二三人）。ニューヨークに次いで世界第二位。
●沢村栄治ら九人、初の野球殿堂入り。
2（土）●文部省、高校でのコース別教育強化を提言。
3（日）●日航、東京－サンフランシスコ間の定期貨物便の運航を開始。
4（月）●ソ連、日本政府に外国軍事基地の一掃を要望。
5（火）●全日本柔道選手権で猪熊功が学生初の優勝。
6（水）●アジア・アフリカ作家会議日本協議会、設立。
7（木）●東京で初の全国市町村教育長研修協議会開催。
8（金）●最高裁、松川事件の三被告を保釈。
●大津市で、MRA（道徳再武装運動）アジア会議、二四ヵ国が参加して開催。
9（土）●五年ぶりに伊豆大島－熱海間の定期航路再開。
10（日）●日赤、赤十字思想誕生百年記念全国大会開く。
11（月）●浦和地裁、西武電車発砲事件（昭和33年9月）の被告米兵に禁固一〇ヵ月の判決。
12（火）●トヨタ自動車、在日米軍の武器輸送車を受注。
13（水）●日本・南ベトナム賠償協定、調印。
14（木）●米軍追浜兵器廠閉鎖で一三三五人に解雇通告。
15（金）●海上標的設置でもめる那珂湊市の漁船二百余隻が、米艦の行動を阻止。
16（土）●大阪府教組委員長ら一八人、勤評闘争で免職。
17（日）●大卒者の三〇％は職場に不満、と文部省調査。
18（月）●警視庁、ダンプカーの積載超過取締りを開始。
19（火）●東大・東京女子大の学生が「男女交際のルール」につき討論会を開催。
20（水）●米軍芦屋基地で輸送機が墜落。六人死亡。
21（木）●道路交通量は六年間で二倍に、と建設省調査。
22（金）●東京での捕鯨四ヵ国会議、国別割当てで決裂。
23（土）●岡山県福渡町で観光バスが川に転落。五人が死亡。
24（日）●八戸市で農作物被害のため、天然記念物のウミネコ射殺を開始。
25（月）●戦後初の国産潜水艦「おやしお」進水。
26（火）●ミュンヘンで開催中の国際オリンピック委員会、一九六四年の開催地を東京に決定。
27（水）●岡山に「東洋一」の反射望遠鏡設置、と新聞に。
28（木）●在日韓国代表部、在日朝鮮人の北朝鮮帰還は武力に訴えてでも阻止、と表明。
29（金）●長野県上郷村で花火工場爆発。二〇一人死傷。
30（土）●大学新卒者の就職率七八・六％で戦後最高、と文部省調査。
31（日）●世界の人口は二八億人、と国連推計。

沖縄タイムス社

▼「まぼろし探偵だ」（6月頃）相次いで創刊された少年漫画雑誌のヒーローの影響を受け、子どもたちに仮面ブーム。サングラスに覆面の「月光仮面」も人気があった。

毎日新聞社

▲沖縄の小学校に米軍機墜落（6月30日）エンジンの一部が石川市宮森小学校の天井を破って落下。校舎や民家も焼き、児童・住民27人が死亡、121人が負傷した。

▶ミレーヌ・ドモンジョ来日（6月7日）「お嬢さんお手やわらかに！」などの青春映画で、世界的な人気を集めた女優。フランス文化使節の一員として来日。

朝日新聞社

▼升田幸三、ついに無冠（6月12日）王将・九段・名人の三大タイトルを独占していたが、体調を崩して次々と失い、この日、大山康晴に敗れて最後の名人位も奪われた。

朝日新聞社

▶最左派ブントが全学連を制す（6月8日）第14回定期大会でブント（共産主義者同盟）が、委員長に唐牛健太郎を選出するなど全中央執行委員をおさえた。

田中真知郎

全学連第十四回定期全国大

▲大阪と奈良を最短距離で結ぶ阪奈有料道路が開通（6月9日）大阪－奈良間は従来の半分の17.8キロ、自動車で50分の距離に短縮された。総工費15億円。

昭和34年6月

1（月）●専売公社、労使対立でタバコ在庫減り、全職員への「見本タバコ」配給中止。

2（火）●第五回参院選（自民七一、社会三八、創価学会は六人全員当選）。

3（水）●シンガポール独立宣言。
●広島市の僧侶、首相官邸前で再軍備に抗議し割腹自殺。

4（木）●北海道真狩村で農家の雇人が一家六人を殺害。

5（金）●警視庁、飛び出しナイフ販売規制強化を決定。

6（土）●インドネシアのスカルノ大統領、再来日。

7（日）●警視庁、新風営法で深夜営業店を一斉取締り。

8（月）●飯能市のメッキ工場から青酸カリ二〇キロが荒川支流に流出。鮎一〇万尾など中毒死。

9（火）●大阪と奈良を結ぶ阪奈有料道路が開通。

10（水）●東京・上野の国立西洋美術館、開館式。

11（木）●ブント全学連の唐牛委員長と清水書記長逮捕。

12（金）●警視庁、捜査三課に全国初の女性刑事を配属。

13（土）●国立大学に厚生指導を専門に担当する「学生部教授」新設、と新聞に。

14（日）●戦後最大の「麻薬王」王漢勝を大阪市で逮捕。

15（月）●厚生省、小児麻痺を指定伝染病に、と告示。
●札幌市で興行中の八木サーカスで火災、象が民家に逃げこむ。

16（火）●京都市で白タク運転手の共済組合が営業開始。

17（水）●韓国国会、在日朝鮮人北朝鮮帰還反対を決議。

18（木）●岸改造内閣が成立。

19（金）●病弱の老妻を安楽死させた夫に執行猶予判決。

20（土）●ゴルフ人口一〇〇万人を超える、と新聞に。

21（日）●科学技術庁長官・中曽根康弘、原子力都市計画法の立法化を表明。

22（月）●川口元陸軍少将、辻政信参院議員に辞職を要求するため参院を訪問。辻、会見拒否。

23（火）●松戸競輪で大穴は八百長と観客騒ぎ四人逮捕。

24（水）●新潟県の地盤沈下の原因は急激な地下水汲み上げ、との報告書が科学技術庁に。

25（木）●長嶋茂雄、天覧試合でサヨナラ本塁打。

26（金）●「被爆者の半数以上は貧困で、原水禁運動に関心が薄い」、と原水協が報告。

27（土）●松浦豊明、パリで開催されたロン・チボー国際音楽コンテストのピアノ部門で一位。

28（日）●八王子市多摩少年院で八人が教官襲い脱走。

29（月）●日本殖産金庫詐欺事件で元社長らに有罪判決。

30（火）●沖縄の石川市で米軍機が宮森小学校に墜落死亡二七人、重軽傷一二一人。

20世紀博物館

軟式野球資料室

少年野球の宝物〝軟球〟の歴史がわかる

東京・墨田区

桑原茂夫

▲菊型ボール。昭和21～25年頃。

▲大衆ボール。昭和12～17年頃。

▲戦前使われたラッキーボール。

軟式ボールには、硬式ボールのように縫い目はない。しかし、縫い目に似た溝が刻まれている。この溝のあるボールを初めて握った時、多くの野球少年たちは興奮した。溝を硬球の縫い目に見立てて投げることができたからだ。少年雑誌のグラビアで見たままに、縫い目に沿って指を当て、ひねって投げる。すると、ボールはみごとに曲がるのである。カーブだ！　カーブが投げられる！

「この溝を刻むのにも、独自のノウハウがあるんです。硬球と同じように握って同じような変化球が投げられるのは、野球を楽しむものの夢ですから、なんとか実現したかった」と、淡々と語るのは、ナガセケンコー株式会社企画室の風間義明さん(五〇)。

ナガセケンコー株式会社というと、「健康ボール」で知られる、軟式ボールの開発メーカーであり、トップメーカーでもある。

そのナガセケンコーが「軟式野球資料室」を作り、軟式ボールに託された夢の数々を一般に公開している。

東京・墨田区にある本社の一階に隣接した二五平方㍍ほどの空間には、狭いながらも軟式野球の歴史をたどるのに欠かせない三〇〇〇冊余の各種大会資料や、大正時代の記念写真パネルが、びっしりと並べられ、そのほかにも、軟式ボール開発の軌跡そのままに並べられた二十数種類ものボール、そして製造工程の一部が展示されている。

昭和五六年に開設されて以来、軟式野球関係者はもとより、時にはプロ野球のOBも訪れて、〝野球の原点〟に触れていくという。

平野英津子

▲軟式ボールの夢を追い続ける風間義明さん。

手さぐりのボール作り

昭和二年、ナガセケンコーの創業者、長瀬康吉さんが友人と二人で興した軟式ボールの会社は、文字どおり手さぐりで、ゴムを貼り合わせていった。

ゴムを厚く延ばして貼り合わせるだけの作業とはいえ、丸いボールを作るその作業は、困難をきわめた。まさに熟練工の世界である。

「なにしろベテランの職人でも、八時間に二五〇個作るのがやっとだったんですから」（風間さん）

雨の日に作ったボールは、バットの反発力で割れやすいという素材の限界をどうやら乗り越え、飛ぶボールとして開発されたディンプル式になってからでも、外見はそのままに、少しずつバージョンアップしてきた。

昭和四〇年代に入ってようやく機械化することが可能になったが、それで満足というわけにはいかなかった。奥の深い世界なのだ。課題はいつも山積みで、たった今も、さらに野球好きの男たちの夢を膨らませるような、限りなく硬式ボールに近い性能を持つボールの開発に取り組んでいる。

ところで、昭和四八年の石油ショックの時、生産がどうにも追いつかないほど軟式ボールが売れた。今では資料も残っていないが、「なんでこんなに売れるんだよ！」と悲鳴をあげるほどの毎日だったという。軟式ボールを追いかけて憂さを晴らし、元気を奮い起こす男たちの思いが、時代を超えて伝わってくる。

小さな資料室だが、そんな感傷にひたらせてくれる空間でもある。

▲大正13年6月、日本女子オリンピック大会で優勝した旧制和歌山高女ナイン。

●軟式野球資料室
東京都墨田区墨田二―三六―一〇
☎〇三―三六一四―三五〇一
東武伊勢崎線鐘ケ淵駅下車、徒歩五分
開館時間＝一〇時～一六時
休館日＝日・祝日、第二・第四土曜日、年末・年始

ベストセラー

映画にもなった少女の日記『にあんちゃん』六〇万部

昭和三四年のベストセラー第一位は、一〇歳の少女・安本末子の日記『にあんちゃん』（光文社）で、六〇万部を超える爆発的な売れ行きを示した。不況にあえぐ北九州の炭鉱地帯を背景に、両親を失った四人の兄妹の、一年半にわたるどん底生活の日々を、淡々とした明るい筆致で綴り、これが戦後の困窮生活から脱却しつつあった人々の心をとらえた。

書名になった「にあんちゃん」とは次兄のこと。一家の不幸は、大黒柱だった父の突然の死によって始まった。日記の書き出しは「きょうはお父さんがなくなった日から四九日目です」から始まる。

やがて、長男が出稼ぎに出るなど、兄妹四人はバラバラになり、末子ひとりが炭鉱に残されてしまったが、末子はへこたれない。「今は、みんなでくろうをしているけれど、きっと私たち兄妹四人の上にも、明るいともしびが、いつかひかると信じています」と希望を失わず、この日記を結んだ。

日記は、長門裕之主演で映画化され、これもヒット作となる。

これに続いたのが、全一二巻におよぶ『日本の歴史』（読売新聞社）で、最新の学問的成果を読み物としてまとめたこのシリーズは、各巻二五万部の売れ行きを記録するヒットとなり、戦後初の日本史ブームを巻き起こした。

なお、この年は週刊誌の創刊ブームでもあり、三〜五月の三ヵ月間だけで二〇種近い週刊誌が創刊されたほど。昭和三四年のおもな創刊誌に「朝日ジャーナル」「週刊現代」「週刊文春」「週刊平凡」「週刊コウロン」などがある。

●昭和34年のベストセラー

順位	書名
1位	『にあんちゃん』（安本末子／光文社）
2位	『日本の歴史』（全12巻／岡田・豊田・和歌森ほか編／読売新聞社）
3位	『少年少女世界文学全集』（全50巻／安倍能成ほか監修／講談社）
4位	『波濤』（井上靖／講談社）
5位	『催眠術入門』（藤本正雄／光文社）
6位	『論文の書き方』（清水幾太郎／岩波書店）
7位	『日本文学全集』（全72巻／新潮社編／新潮社）
8位	『私本太平記』（全13巻／吉川英治／毎日新聞社）
9位	『世界文学全集』（全50巻／阿部・桑原・中島ほか編／河出書房新社）
10位	『敦煌』（井上靖／講談社）

全国出版協会出版科学研究所

▲安本末子『にあんちゃん』（光文社、650円）

▲『日本の歴史』（読売新聞社、750円）

▲吉川英治『私本太平記』（毎日新聞社、320円）

スターと名場面

映画賞独占「キクとイサム」とマイトガイ・小林旭の登場

この年、映画で話題を呼んだのは、キネマ旬報賞、ブルーリボン賞など各種映画賞を総ナメにした、独立プロ系の作品「キクとイサム」（今井正監督、大東映画）だった。

占領時代の落とし子とされていた混血児問題に真正面から取り組んだ作品で、ここでも「にあんちゃん」と同様、健気に生きる子どもが主役になっているが、老婆役の北林谷栄の熱演も注目を集めた。

舞台で断然光ったのは「がめつい奴」（作・演出＝菊田一夫）だ。東京・芸術座で一〇月から上演され、堂々一〇ヵ月のロングランを記録した。

主役のお鹿婆さん役を熱演したベテラン・三益愛子の、梅干しのカメに隠した札束を数える迫真の演技が話題を呼び、「がめつい」は流行語にもなった。

音楽の方では、ペギー葉山の「南国土佐を後にして」が大ヒット。ジャズやポピュラーでヒットを飛ばしていたペギー葉山と、民謡調の歌という組み合わせの意外性もあって、計一〇〇万枚を超える大ヒットとなった。

また、この年飛び出したスターに、小林旭がいる。「ギターを持った渡り鳥」で、マイトガイ・小林旭はタフガイ・石原裕次郎に続く、日活の新しいドル箱スターとなった。

大映提供

東宝提供

▲混血児の姉弟が明るく生きる姿を描いた「キクとイサム」。

▶「南国土佐を後にして」のヒットで、ペギー葉山は、名誉高知県人になる。

中和商会（太田事務所）提供

◀「がめつい奴」の舞台。写真左から、中山千夏、三益愛子、榎本健一。

にっかつ提供

◀「ギターを持った渡り鳥」から。写真左が小林旭、右は宍戸錠。

モノ語り'59

なんといっても超人気 一袋三五円の「即席麺」が市場席巻

▲今や日本の代表的食べ物、即席麺が大人気　日清食品から1袋35円で発売された「チキンラーメン」は、昭和34年のヒット商品と言ってよい。前年に発売された、世界初のこの即席麺が、年間600万食を生産する大ベストセラーとなり、食品市場を席巻したのである。その爆発的な売れ行きは、大手商社が取り扱い商品に加えたほどで、現在でも販売され、その根強い人気を示している。

◀ラーメンが駄菓子屋で買えた　ノンフライ麺の製造をしていた三重県の松田産業（現・おやつカンパニー）が、製造過程で捨てていた麺のかけらを利用して製品化した「ベビーラーメン」（1個10円）が、遊びながら食べられるラーメンとして、子どもたちの人気を呼んだ。昭和46年、「ベビースターラーメン」と改名され、現在にいたっている。

▲3時間で建つ勉強部屋　プレハブ住宅（当時は組み立て住宅）の第1号として売り出されヒットした大和ハウス工業の「ミゼットハウス」。「3時間で建つ勉強部屋」のキャッチコピーどおり、4人の技術者でわずか3時間で建てられた。3坪以下なので建築許可もいらず、しかも手頃な価格（6畳間の建物で11万8000円）という画期的な商品だった。

▲月産5000台！　カメラが大衆の手に　ハーフサイズ・カメラの先駆けとして、「オリンパスペン」が、オリンパス光学工業から発売され、カメラの大衆化に大きな役割をはたした。6000円という低価格と軽量さ、そしてフィルムの経済性などから、これまでカメラに親しめなかった層の需要を喚起し、月産5000台という生産量を記録した。

▲滋養が強調された新飲料トマト・ジュース　愛知トマト（現・カゴメ）から発売された、カゴメ印のトマト・ジュース。2900グラム入りの缶で、現在の缶ジュースなら約15本分の分量になる。写真はそのラベルだが、栄養分が詳しく記されているのは、滋養に役立つトマト・ジュースという面を強調するためで、まだ楽しんで飲むという雰囲気からは遠かった。

▼台所革命を起こした使いやすい液体洗剤　「液体ライポンF」が、ライオン油脂（現・ライオン）から発売され、使いやすい液体の台所用（野菜・果物・食器専用）洗剤としてヒットした。「水の17倍もきれいに洗えます」のキャッチフレーズとともに1本100円で売り出され、台所用洗剤市場を大きく広げた。

▲文字どおり缶詰でスタートした缶ビール　この年、日本麦酒（現・サッポロビール）が売り出した缶詰ビールは、スチール製で、缶切りで穴を開けて注ぐ"缶詰"だった。そのせいもあって、瓶ビールに比べ風味が劣る、缶臭があるといったマイナス・イメージが先行し、人気商品たりえなかった。現在のような、プルトップ式のアルミ缶で人気商品となったのは、昭和45年頃からのことである。

人物クローズアップ

小澤征爾（二四）

スクーターに乗った武者修行 国際指揮者コンクールで優勝

昭和三四年九月一二日。スクーター旅行でパリに到着した二四歳の無名の日本人が、世界的権威のあるブザンソン国際青年指揮者コンクールでいきなり優勝した。このニュースは世界に大きく伝えられたが、日本人がこの快挙に気づいたのは、その三年後、彼がニューヨーク・フィルハーモニックの副指揮者として凱旋帰国してからだった。

青年の名は小澤征爾。昭和一〇年九月一日、当時の満州国（中国東北部）奉天（瀋陽）生まれ。父親は歯科医。成城学園中学三年の頃、仲間たちと賛美歌の合唱グループを作り、そこで初めて指揮棒を振る。成城高校へ進学したが、桐朋学園高校音楽科に入りなおし、同学園短大に進学。日本クラシック界の草分けだった斎藤秀雄氏からマン・ツー・マンで指揮法を学ぶ。卒業と同時に、富士重工にかけあい宣伝用にとスクーターを調達して、単身、欧州旅行に出発したのだった。

「外国の音楽をやるためには、その音楽の生まれた土、そこに住んでいる人間をじかに知りたい。とにかくぼくはそう思った。もちろん青二才のぼくに大金のあるはずはないが、多少の金さえ持っていれば、あとはスクーターでも宣伝しながら行けば、ぼく一人ぐらいの資金は捻出できるのではないかと思うようになった。それがぼくをしてスクーター旅行を計画させた動機だった」（『ボクの音楽武者修行』より）

今はオペラに意欲を

ブザンソンで優勝後、次々にコンクールに優勝した小澤征爾は、シャルル・ミュンシュ、カラヤンらから個人レッスンを受けた後、レナード・バーンスタインの招きでニューヨーク・フィルハーモニックの副指揮者に就任。以来、破竹の勢いで世界の頂点をきわめていった。

現在、ボストン交響楽団音楽監督をはじめ、新日本フィル名誉芸術監督、水戸室内管弦楽団常任指揮者を兼任。また、恩師・斎藤秀雄氏の門下生を集めたサイトウ・キネン・オーケストラを率いて、世界各地でコンサートも行っている。

平成六年には若き日に学んだボストン交響楽団の本拠地・タングルウッドに、九七〇万ドルをかけた「セイジ・オザワ・ホール」が完成。クラウディオ・アバド、リカルド・ムーティと並んで、名実ともに世界のクラシック界の頂点に立つマエストロとなった。

だが、本拠地のアメリカではオペラを指揮する機会が少ないため、今はオペラの本場であるヨーロッパでの音楽活動に意欲を燃やしている。小澤征爾の音楽武者修行は、還暦をすぎた今現在も続いているのだ。

▲1959年2月1日、貨物船淡路山丸にスクーターを持って乗りこみ、フランスに向かう。寄港地(ボンベイ?)でのスナップ。

FESTIVAL INTERNATIONAL DE MUSIQUE
DE BESANÇON

SIÈGE SOCIAL & SECRÉTARIAT — 19, RUE DE LA RÉPUBLIQUE BESANÇON

Concours International de Jeunes Chefs d'Orchestre
ANNÉE 1959

Premier Prix
a été décerné à Monsieur Seiji Ozawa
Section des " professionnels - diplomés "

Besançon, le 10 Septembre 1959

Le Président du Jury : — Le Commissaire Général : — Le Président du Festival :

▶ブザンソン指揮者コンクールの表彰状。鞄の中でシワクチャになっていたものを母が発見。アイロンをかけて額に入れた。

◀帰国し、日本のオーケストラを指揮する若き日の小澤征爾。「桐朋はもちろん学生だから若いが、日フィルもN響も若い。それだけ無限の可能性があるわけだ」(『ボクの音楽武者修行』より)

決定的瞬間

宇宙からの一枚！人類が初めて見た月の裏側写真

全世界に衝撃波が走った。深い闇に包まれた月の裏側が人類史上初めてその姿を現したからだ。

ソ連のタス通信は、この年一〇月二六日夜、第三号宇宙ロケット「ルナ3号」が同月七日、月の裏側の写真映像を地上に送信するまでの経過を発表した。

また二七日午前零時半には目立った地形やクレーターに、「モスクワの海」「宇宙飛行士の湾」、あるいは「ツィオルコフスキー」「モロノソフ」といった科学者の名を命名し、月の裏側の写真を公表したのである。

当時、東京天文台測光部長で東大教授の古畑正秋氏は、月の裏側を見た喜びを「今から三五〇年ほど前に、ガリレオが初めて望遠鏡で月を見て、たくさんの噴火口などを発見した歴史的業績にくらべても、今度の成功は比較にならないほど大きな意義をもっているといえる。見方によっては、科学における最大の勝利であるといえるのではあるまいか」と「朝日新聞」（一〇月二七日）紙上で語った。

宇宙ステーションが写真撮影を行ったのは一〇月七日午前、月と太陽を結んだ線と軌道が交差した瞬間、月から六万〜七万キロの距離からである。

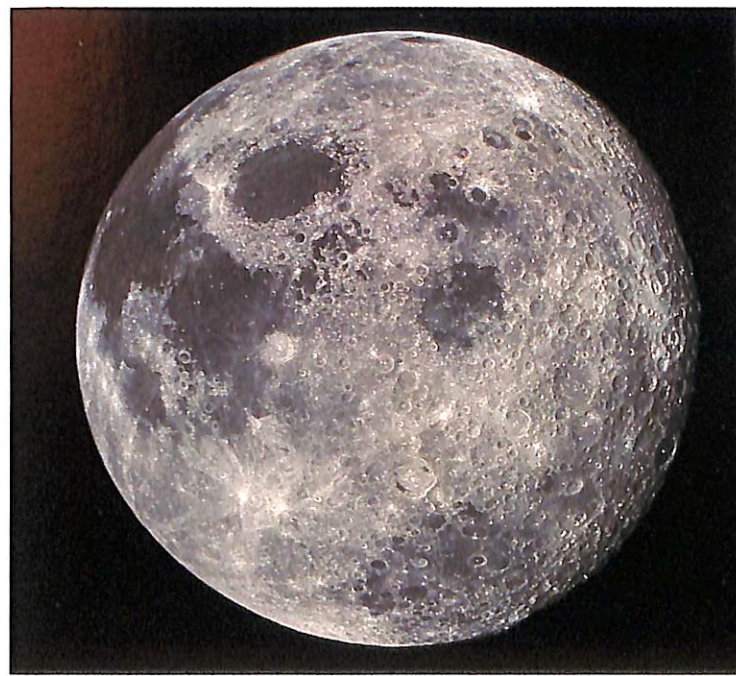
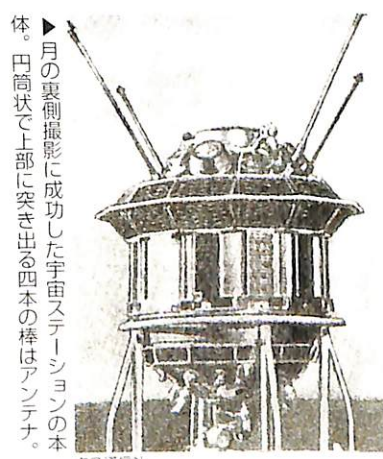
カメラには焦点距離がそれぞれ二〇〇ミリと五〇〇ミリのレンズが取り付けられ、地上からの信号によって照準装置にスイッチが入り装置を動かすよう指令が発せられた。

撮影は四〇分間続き、三五ミリフィルムの画像処理はステーション内で自動的に行われ、光電装置にたくわえられた。そして地球に四万五〇〇〇キロまで接近したところで電気信号を電波に乗せ、地上に映像を送信した。

「ルナ3号」は重量が二七八・五キログラム。大気圏外で正確な軌道をとり、物体に方向を与え確実に飛行させることに成功、さらには宇宙的な距離での無線機器による遠隔操作、テレビ映像の伝達も可能にし、宇宙開発の礎（いしずえ）を築いたのである。

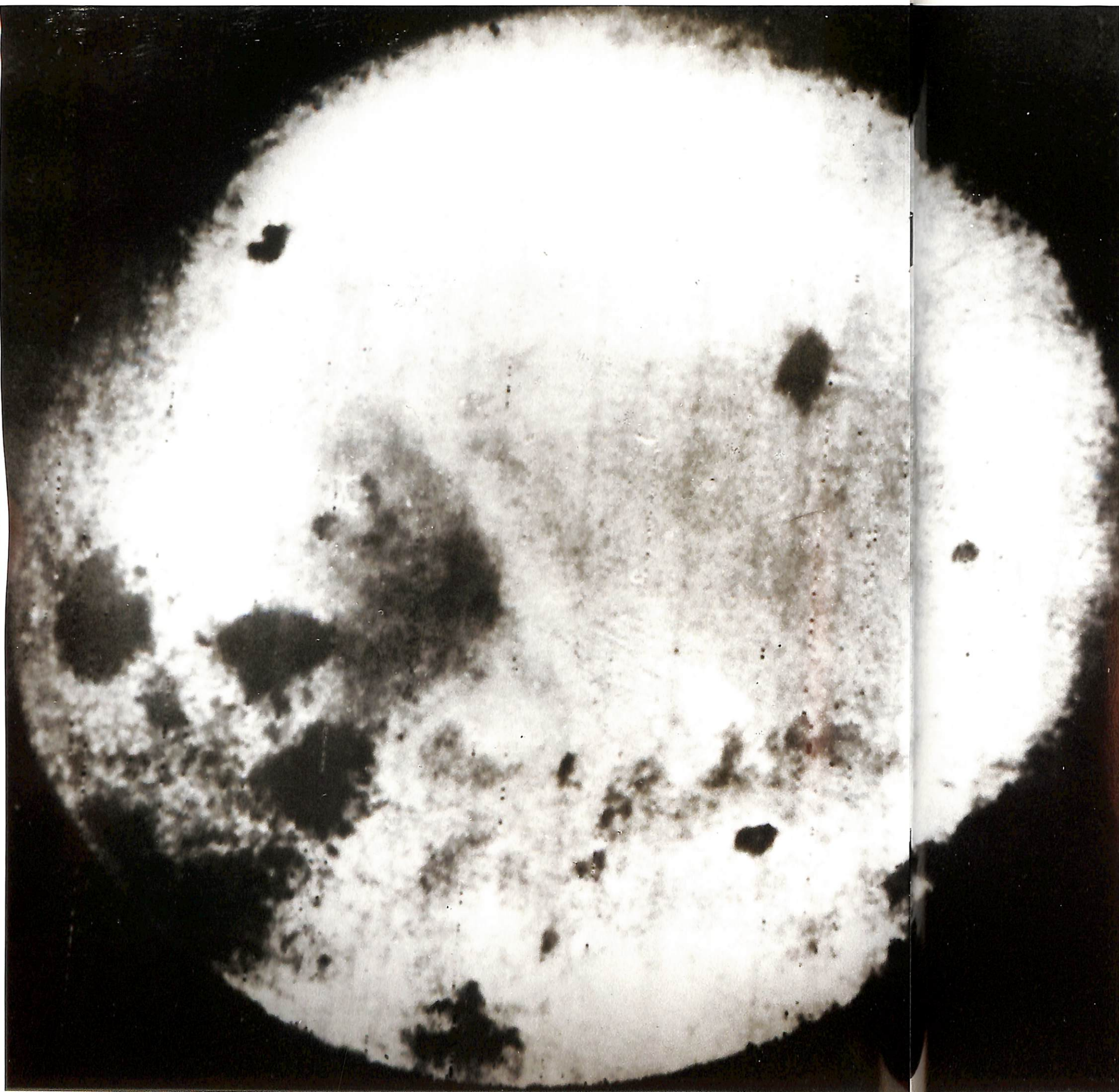
ライバルのアメリカが初めて月に探査機を送り、写真撮影に成功するのは、この年から五年後の一九六四年七月二八日のことだった。

◀月の裏側は単調な姿をしている。新しく発見された部分にはそれぞれの名がつけられた。「モスクワの海」(右上)は直径300キロもある。

◀アメリカのアポロ計画の中で撮影されたもの。左半分が「豊かの海」など表の部分、右半分が裏側。

NASA　共同通信社

▶月の裏側撮影に成功した宇宙ステーションの本体。円筒状で上部に突き出る四本の棒はアンテナ。

タス通信社

タス通信社

美の出会い

松方幸次郎の夢、実る ついにモネの「睡蓮」が日本所有になった

この年六月一〇日、東京・上野公園にル・コルビュジエの設計になる国立西洋美術館が開館した。一三日の一般公開初日には約八〇〇〇人が入場、日本所有となった西洋近代絵画の傑作を一目見たいという人人の列が終日続いた。

ここに収蔵された作品は、松方幸次郎が、大正から昭和にかけてヨーロッパ滞在中に収集したものの一部である。第二次世界大戦の被災をまぬがれて、フランス政府に接収されていた三七一点の作品は、昭和二六年の対日講和条約を機に、返還交渉が進められてきた。フランス政府は、ゴッホの「アルルの寝室」など国外不出の重要作品数点をのぞき、日本への寄贈という形で承諾。ただし、その条件として作品を公開するための美術館の建設が要請されたのである。

国立西洋美術館提供

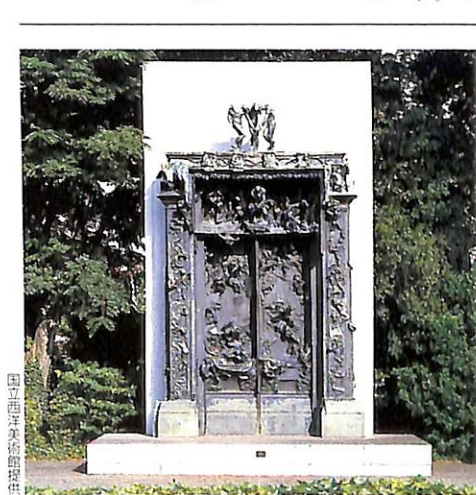
▲国立西洋美術館の設計は現代建築の巨匠ル・コルビュジエによる。

松方幸次郎は、明治の政治家・松方正義の三男でイエール大学、ソルボンヌ大学に学び、明治二九年川崎造船所の初代社長に就任している。

松方自身は根っからの美術愛好家ではなかったが、西洋美術の本物を見る機会がほとんどない日本の芸術家に「本家」の作品を見せたいと考えた。

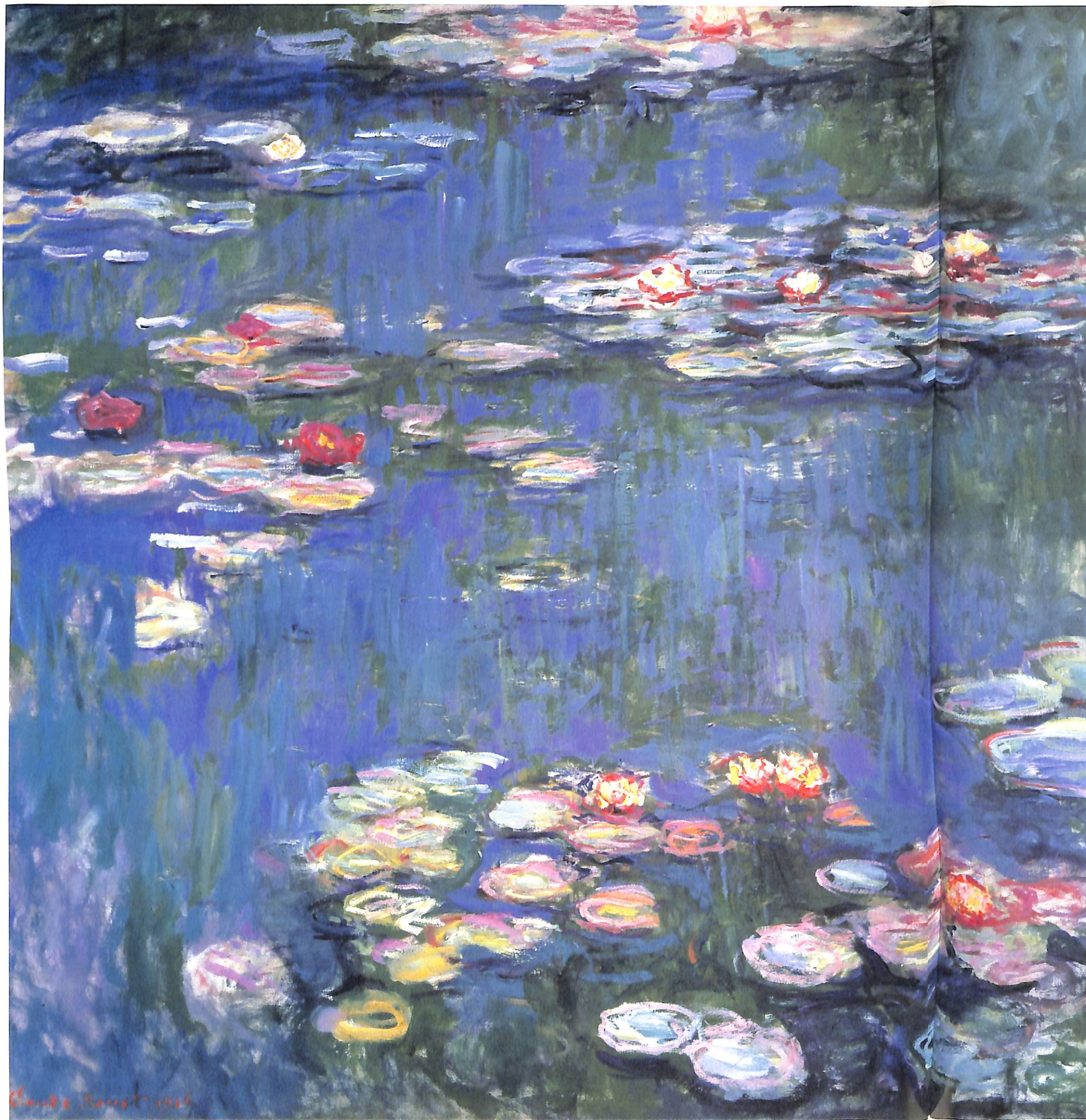
「絵はわからない」という松方の周囲には、貴重な助言を与えた人たちがいた。同郷の友人で洋画家の黒田清輝、美術研究家・矢代幸雄、イギリスの画家ブラングイン、大切に保管していた自作を譲ってくれたクロード・モネたちだ。

松方が収集したものの中では、特にモネ、ルノアールなどフランス印象派の絵画と、「考える人」などオーギュスト・ロダンの彫刻群が充実しているが、絵画・彫刻以外にも、家具やタピストリーなど一万点を超える膨大なものであった。

国立西洋美術館提供

▲ピエール・オーギュスト・ルノアール作「アルジェリア風のパリの女たち」。

国立西洋美術館提供

▲オーギュスト・ロダン作「地獄の門」。

国立西洋美術館提供

▲クロード・モネ作「睡蓮」。モネは晩年、パリ郊外のジヴェルニーのアトリエで「睡蓮」の連作に没頭していた。松方はこのアトリエを訪れ、モネから直接作品を購入した。

「現場」を歩く
水俣
今も外海と仕切られた海

山本徹美

昭和三四年七月二二日、熊本大学医学部研究班は、それまで原因不明の奇病とされていた水俣病の主因が有機水銀化合物であると発表した。

有機水銀の出所がチッソ（当時は、新日本窒素肥料）水俣工場の排水であることは明白だった。

昭和四三年九月二六日、政府は水俣病を正式に公害病と認定。チッソを相手どった患者による訴訟は第三次まで続き、平成八年五月、ようやく和解が成立する。結局、水俣病の認定申請実数は一万七一五七件、そのうち認定されたのが二二五六人、うち一一六二人がすでに他界した。

平成八年夏、水俣を訪ねてみた。

水俣を抱えるように延びた明神崎の突端には市立水俣病資料館が建っていた。館内にはビデオ映像と写真、パネル、書籍など水俣病に関する資料が備えてある。そこで車椅子に座った白髪の翁に出会った。「語り部」として講話をしている浜本二徳さん（六一）だ。浜本さんは昭和四五年五月、水俣病陳情団の一員として、時の厚生省政務次官・橋本龍太郎に面会した。橋本政務次官は終始高圧的な態度で、「政府が人命を大切にしなかったことがあるかっ」と怒鳴り、その剣幕に陳情団のある婦人はおびえ、泣きだしてしまった。浜本さんが回顧する。

「なんと冷酷な政治家だろうと思いました。あろうことかその人物が、総理大臣になった。絶句したとです」

▲水俣病患者が公式発見されたのは、昭和31年5月。それから40年、地元では「きれいな海は戻った」と言うが、「漁獲禁止」の看板はまだ撤去されていない。

お地蔵さんの視線

チッソ工場が垂れ流した有毒廃液はヘドロと化して水俣湾に沈殿、堆積した。その広さは二〇九万平方メートル。このヘドロのうち約五八万平方メートル分が入り江にかき集められ、合成繊維のシートでおおわれた後、盛土をされ封じこまれた。その工事に要した歳月は一三年、じつに四八五億円にものぼる巨費が投じられたのである。熊本県はチッソ県債を発行、償還予定総額は七一一億円にふくれあがり、県財政を圧迫している。

観光パンフレットには「きれいな海が戻った」とあり、湾内に生息する魚類の含有水銀量は厚生省の基準値を下回っていると判明したとし、外海との仕切り網はいつ取りはずしてもよい状態、と安全宣言だ。とはいえ、調査した魚体のサンプル数などは不明である。

埠頭へ行ってみると仕切り網はまだ放置したままで、「漁獲禁止」の立て看板も撤去されていない。安全なわりには矛盾している。堤防で釣りをしていたおかみさんは「もう平気とよ。唐揚げにするとおいしいよ。どう、あんたも」と釣ったアジコ（鯵）を勧めてくれたが。

百間排水路と呼ばれる運河をさかのぼると、現在も使用中の排水口に着く。

ふと路傍に目を落とすと、膝よりも丈の高い石仏が鎮座しているではないか。立て札に、「水俣病巡礼八十八ヵ所一番札所」とある。お地蔵さんは排水口へ面を向けているのだが、脇に植えられた樹木が、その視線をさえぎろうとしていた。これではいけない。未来永劫、この海と愚かな人間の所業を見据えるべく大切にしてほしい。

桑原史成

▲重症の胎児性水俣病患者。昭和35年の撮影。

マイカー元年！ わが家にクルマがやって来た

●大衆向け軽自動車「スバル360」（写真の車）も当時は42万5000円、大学卒初任給の約33倍の値段。マイカーは庶民にとってまだまだ手の届きにくいものだった。

終戦直後、乗用車の製造禁止という苦難のスタートを切った自動車産業。しかし朝鮮戦争（昭和二五年）の特需景気を背景に、急速な回復をみせる。一方、生活にも安定を取り戻した庶民は、マイカーを夢から現実へと感じ始めた。

マイカー時代の幕開き ブルーバードの成功

戦後の自動車産業を概観すると、二つのテーマが見えてくる。ひとつは技術面で、海外の車の技術的なノウハウを一刻も早く吸収すること。もうひとつは価格をいかに安くするかという点である。

基本的には大量生産の態勢が整うことであり、当時の主要メーカーがしのぎを削ったのもこの点であった。

昭和二七年、通産省は「国産乗用自動車のために」というパンフレットを作成。三〇年には「国民車育成要綱案」を作成して発表。この「要綱案」は自動車業界に強い衝撃を与えた。技術面でのガイドラインもさりながら、「排気量三五〇～五〇〇cc、三～四人乗りで最終価格は二五万円をめざす」という点である。

優秀な車を製作した企業にはさまざまな優遇措置が与えられるというメリットもあったが、メーカーは価格面でこの案には乗れなかった。実際、三〇年に発売されたトヨタ自動車工業の「トヨペット・クラウン」（六人乗り、一五〇〇cc）は、価格が一〇一万四八六〇円。大学卒の初任給が一万～一万二〇〇〇円という時代だからまさに高嶺の花だ。

三二年に、「コロナ・ST型」（トヨ

◀初代ブルーバード（ダットサン310型）。排気量980cc。昭和34年8月に発売され、わが国初の本格的国産乗用車として人気を集め、2年後には10万台を突破する。

▼現在のブルーバード。平成8年1月に発売された排気量2000ccの最新型。セダンらしいボクシーなスタイルが人気になっている。

◀ダットサン210型。排気量988cc。昭和32年10月に発売された。翌33年のオーストラリア・ラリーに出場し、クラス優勝をはたした。こうした実績が、ブルーバード誕生へとつながる。

▶プリンス・スカイライン。初代スカイラインは昭和32年4月に発表され、当時の自動車業界に大きな影響を与えた。写真は36年に登場した排気量1900ccのスカイライン。

▼トヨペット・コロナ（PT10型）。初代コロナ（ST10型）は昭和32年に発売された。写真のコロナは新開発のP型45馬力を備え、34年に発売されたもの。

▲トヨペット・クラウン（RS20）。クラウンが登場したのは昭和30年。排気量1500ccで、当時としては最高級の自家用自動車だった。写真は33年発売のクラウン。

トヨタ自動車・日産自動車提供

タ）が発売され、定価は工場渡しで六二万三五〇〇円。三三年には大衆向け軽自動車「スバル360」（富士重工業）が登場。それでも四二万五〇〇〇円。

そして日産は昭和三四年に排気量一〇〇〇ccの「ブルーバード（ダットサン三一〇型）」を発売。価格は六八万～六九万円と、けっして安くはないが、日本初の月産三〇〇〇台ペースで推移し、二年後には累計で一〇万台を超えるという売り上げをみせる。昭和三四年の自動車総生産台数は一八万一四四三台。その人気のほどがわかる。

この「ブルーバード」の成功こそマイカー時代の幕開きを告げるものであった。

進行する消費革命の中で 次は「家つき・カーつき」

自動車業界の努力の一方で、庶民はようやく生活の中にゆとりを取り戻しつつあった。昭和三一年七月、経済企画庁は『年次経済報告』の結語の中で「もはや"戦後"ではない」と主張。日本の経済は本格的な発展期を迎えていた。こうした中で電化製品（三種の神器＝テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫）が急速に普及する。三五年には女性の理想とする結婚相手は「家つき・カーつき……」という流行語が週刊誌をにぎわせた。

所得でみても、昭和三〇年の可処分所得が二万九八九六円、その四年後にあたる三四年には三万四三三三円（一ヵ月平均 総理府「家計調査」）と大きく増加している。いわゆる「消費革命」が始まったのである。

サラリーマンが殺到したドライブ・クラブや教習所

昭和三四年の二年ほど前からセコハン（中古）自動車ブームが始まっていた。

「近ごろ都内では毎月三〇〇〇台の車がふえている。うち二〇〇〇台は中古小型車の自家用運転族」（『毎日新聞』昭和三三年五月二八日）。「どうやら動くといった程度の車なら三万円ぐらいからある」（同）というから相当安いが、維持費や修理代も馬鹿にならないというのが実態であった。

ドライブ・クラブというのも繁盛した。会員になり、半日、一日という単位で車を借りて運転する。車の運転は、新しいステイタスとして若者やサラリーマンの心をとらえていたのだ。

またこの年の「朝日新聞」（昭和三四年五月一七日）は「東京都内で運転免許証を持っているのは各種合わせて一〇〇万人。（略）連日二千余人が受験に押しよせている」とその熱気を報じている。

免許証取得ブームは女性にまで広がり始め、二年後の「週刊文春」（昭和三六年六月一九日号）には「今の女性に『習得したいことは？』という質問を発すると『一に料理、二に運転免許』と答えるケースが多いそうだ」という記事もある。

ダットサンの動態保存を目的に、昭和六〇年に設立された「全日本ダットサン会」という同好会がある。そのメンバーの一人である宮島涼二さんは七四歳になる今も、各地で開かれるクラシックカーのイベントがあると、ダットサン一一〇に乗って出かけていく。

「一一〇は、"柿の種"という愛称で親しまれました。テールランプがそっくりだったからです。私にとってこの車は生涯の記念となるもの。今も大切にしています」と。ほしくてたまらなかったマイカーを手に入れた時の喜びと興奮は、三五年以上たった今も変わらない。

●昭和32年5月の第4回全日本自動車ショー。クルマの大衆化への期待をこめて、第1回自動車ショーは昭和29年4月、東京日比谷で開かれ、入場者54万7000人を数えた。

トヨタ自動車提供

乗用車国内業種別販売先比率の推移

昭和／32年／33年／34年／35年／36年／37年／38年／39年／40年／41年／42年／43年／44年／45年／46年
100／80／60／40／20／0
その他／個人／サービス業／ハイヤー業 タクシー業／商業／製造業／建設業

昭和三四年頃から個人向けの販売がふえ、タクシー・ハイヤーなどの比率が低くなっている。『日本の自動車工業』（日本自動車工業会）より。

フォト+日録で再現する365日

田中真知郎

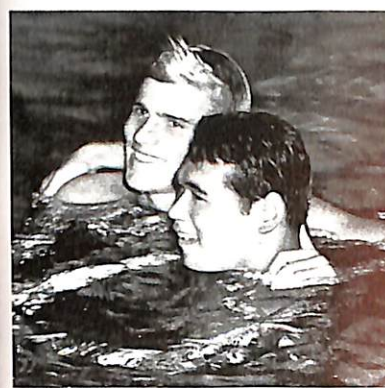
▲東京地裁が「朝日訴訟」で臨床尋問（7月2日）憲法が定める「最低限度の生活」をめぐって、昭和32年に朝日茂が起こした訴訟の現場検証。原告が結核療養中の岡山県の国立療養所で行われた。写真は療養所の朝日氏。

▲田中聡子、200メートル背泳ぎで世界新（7月12日）東京の神宮プールで開かれた日本選手権で達成。2分37秒1。日本人女子水泳の世界新は昭和8年の前畑秀子以来、実に26年ぶりだった。

共同通信社

◀「お墓のアパート」募集中（7月4日）東京都は雑司ケ谷霊園内に3階建ての墓地を建設。使用料は5年で3000～1万5000円と格安だったが、売れ行きは1ヵ月後で約1割といまひとつ。

毎日新聞社

▶横行するヤミ米の「かつぎ屋」（7月）写真は東京の日暮里駅。米の配給統制どこ吹く風。1人で90から300キロもかついで列車に乗りこむ。米の年間生産量の約2割がヤミ米だったという。

▲山中、宿敵ローズに勝つ（7月21日）東京の神宮プールで開かれた日米対抗水上競技大会で、山中毅と豪州のローズの競泳が実現。400メートル自由形は6度目の対決で、ついに山中が勝った。

昭和34年7月

1（水）●琉球立法院、行政主席公選制・日本復帰などを米政府に要請と決議。

2（木）●日本テレビが、巨人対大洋戦で世界初のカラーでナイターを中継。

3（金）●戦後最高の赤痢流行で、伝染病予防法発動。

4（土）●横浜市の本覚寺で米領事館開設百年記念祭。
●東京都建設の三階建て立体墓地が募集を開始。

5（日）●国鉄が不正乗車摘発のため、全線で初の特別改札を実施する、と新聞に。

6（月）●社会党中執、党は階級的大衆政党と確認。

7（火）●上原専禄・家永三郎らが安保問題研究会結成。

8（水）●厚生省麻薬取締官、横浜などで密売組織摘発。

9（木）●谷川岳で雪渓が崩落。五人死亡。

10（金）●三重県警と上野署、受講者への不法監禁容疑などで山岸会幹部ら七人を逮捕。

11（土）●岸信介首相、欧・中南米一一カ国歴訪に出発。

12（日）●田中聡子、二〇〇メートル背泳ぎで世界新記録。

13（月）●石炭四社の整理反対で、炭労が二四時間スト。

14（火）●西日本に豪雨、死者・行方不明五〇人を超す。

15（水）●国鉄紀勢本線が全通。

16（木）●都内の海と川の大部分は、大腸菌の汚染で水泳に不適、と東京都の調査まとまる。

17（金）●釜山に抑留中の日本人漁船員一三二人がデモ。
●好景気で一万円札の印刷追いつかずと新聞に。

18（土）●人工内臓研究会で町工場製の人工血管紹介。

19（日）●社会党顧問の西尾末広、安保阻止に具体案をと社会党批判。

20（月）●北海道千歳空港が一部をのぞき米国より返還。
●日本テレビ、六〇台の街頭カラーテレビ設置。

21（火）●自民党、原水協への自治体助成金を中止するよう、全国の同党県議らに指令。

22（水）●熊大医学部、水俣病の原因は有機水銀と結論。

23（木）●パラグアイと日本人移民受け入れ協定に調印。

24（金）●児島明子、ミス・ユニバースに選ばれる。

25（土）●文化財保護委員会、山梨県の富士山ケーブル建設計画を不許可。

26（日）●山中毅、四〇〇メートル自由形で世界新記録。

27（月）●東京中野でパーマ用剤が自然発火、二人死亡。

28（火）●松田文相と日教組・小林委員長が初会見。

29（水）●自由労組岡山支部が県庁で警官隊と衝突。双方で四一人が負傷。

30（木）●自民党文教調査会（会長・灘尾弘吉）が初会合。

31（金）●特急「こだま」が最高時速一六三キロの狭軌世界記録を樹立。

証言・あの日この日

古川ロッパ

4月6日（月）〈朝食、ハムエグス、切干、飯二杯。女房より、昨夜すし屋で、洋子はちっとも食ひたがらなかったのは、パパのふところ具合を察したんださうで、帰ってから、そっとラーメンをとりて食ったんだときゝ、くさる。ショックだねえ、哀しからずや貧しき父は〉（『古川ロッパ昭和日記晩年篇』）

落ち目の芸人は寂しい。ロッパのような大物の場合、その寂しさは、さらに。劇作家に馬鹿にされ、昔のようなイイ役はもらえない。それでも、借金に追われる彼は、どんな役も拒まず舞台に立つ。そんなある日、新宿コマ劇場へ出演中の彼は、舞台を見に来た家族を連れて地下の鮨屋へ。粉わさびを使うような鮨屋だ。大の食通だった彼はその不満を前日の日記に書いている。そんな鮨屋でさえ娘にとっては……。（坪内祐三）

朝日新聞社

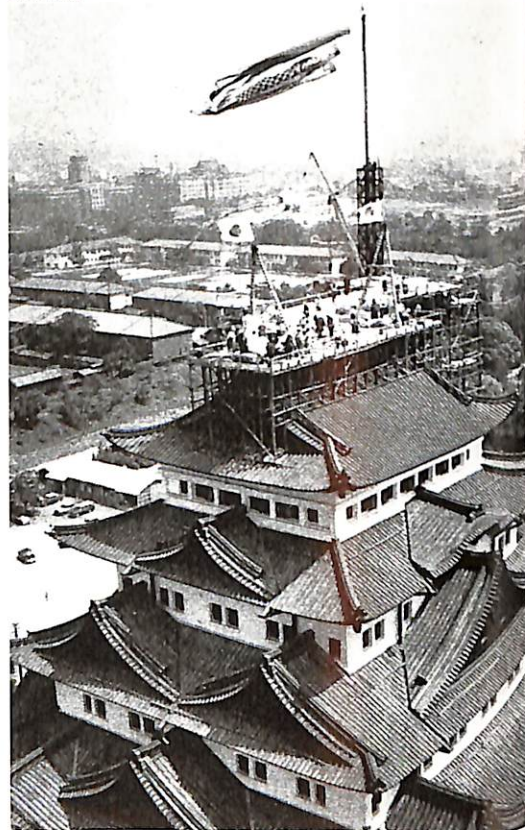
▲最高裁、松川事件に差し戻し判決（8月10日）昭和24年8月に福島県の東北本線で起きた列車転覆事件に対する10年目の判決。二審で、死刑を含み17人が有罪となっていた。写真は判決を喜ぶ被告・支援者たちと全員無罪の垂れ幕。4年後の昭和38年になって、無罪確定となった。

共同通信社

朝日新聞社

▲総評の顔、再選（8月29日）総評の定期大会で、太田薫議長（写真右）・岩井章事務局長（左）が再選され、このコンビは2年目に入った。

▲延長15回、西条高校が優勝（8月18日）夏の高校野球で、北四国代表の西条高校が宇都宮工業を破って優勝した。決勝戦の延長15回は史上最長だった。

毎日新聞社

▶再建名古屋城に金の鯱（8月5日）戦災で焼失したため再建工事が行われていた名古屋城で、前月の小天守に続き、大天守への鯱取り付け工事が行われた。

昭和34年8月

1（土）●日産ブルーバード発売。

2（日）●東京で組合員制度による白タクが営業開始。

3（月）●都内で多色刷り偽千円札が発見される。

4（火）●教科書検定で小学校社会科の三七％が不合格。

5（水）●再建名古屋城天守閣に金の鯱取り付け開始。
●広島の第五回原水禁世界大会で、英独代表が離脱を声明。

6（木）●千葉県姉崎町の養殖はまぐりが赤潮で全滅。

7（金）●中国・インド両軍、国境で武力衝突。

8（土）●エリザベス・サンダース・ホームの混血児一四人が養子縁組のため米国へ出発。

9（日）●長崎市で被爆勤労学徒の慰霊碑の除幕式。

10（月）●最高裁、松川事件を仙台高裁に差し戻し。

11（火）●運輸省、個人タクシーを認可する方針を決定。
●和歌山市沖合で中学生がサメに襲われ死亡。

12（水）●上半期の対米貿易額が戦後初めて黒字になる。

13（木）●日本・北朝鮮両赤十字、在日朝鮮人帰還に関する協定に調印。

14（金）●日本のペルー・アンデス探検隊、南米アウサンガテ南峰六二〇〇メートルに初登頂。

15（土）●横浜の保土谷化学工場で爆発事故。二人死亡。

16（日）●東京陸運局、神風タクシー取締りのため四社を深夜抜き打ち検査。

17（月）●「いつか来た道」の島耕二監督、モスクワ国際映画祭で最優秀監督賞を受賞。

18（火）●鹿児島県下でも水俣病の猫、と保健所が発表。
●国際人権連盟、占領下の人権調査のため沖縄に来訪。

19（水）●東京亀戸の田原製作所争議で衝突。一人死亡。

20（木）●日本の人口は世界五位、と国連統計局が発表。

21（金）●ハワイ、米の五〇番目の州に昇格。

22（土）●第五回日本母親大会、一万三千余人が参加。

23（日）●アラブ連盟、イスラエル排斥規定違反で新三菱自動車の輸入禁止を発表。

24（月）●長崎大で入試問題を漏洩した教授の辞職承認。

25（火）●能登半島に集中豪雨。死者三四人。

26（水）●全医労、新潟県国立高田病院の看護婦に対する出産制限を破棄するよう通告。

27（木）●二二七万世帯が住宅難、と総理府の住宅統計。

28（金）●三井鉱山が希望退職を募集、三池争議勃発。

29（土）●日本とハンガリー、国交回復交換公文に調印。

30（日）●景気の回復と綿紡の操短緩和で紡績会社が女子工員大量募集、と新聞に。

31（月）●世界初の国際教育会議、東京で開催。

◀西尾末広、「除名処分」に反撃（9月12日）社会党の再建大会で、安保闘争での党の路線を批判、国民政党への脱皮を訴える西尾に「除名処分」問題が噴出。後に西尾が民主社会党を結成する契機となる。

▼「黒いジェット機」日本へ（9月24日）神奈川県藤沢で、黒塗りのU2型機が撮影された。政府は国会で「米国の気象観測機」と答えたが、翌年、ソ連に同型機が撃墜されてCIAのスパイ機と判明した。

▲中ソ対立が本格化（10月1日）中国建国10周年記念式典に参加するため、フルシチョフ・ソ連首相が訪中したが、平和共存をめぐる中国とソ連の対立が明確になった。左から、フルシチョフ、毛沢東、ホー・チ・ミン。

◀銀座で炭鉱離職者救済の「黒い羽根募金」（9月25日）炭鉱不況の窮状を見かねた徳永喜久子（写真）ら福岡市の婦人有志が、1000万円を目標に東京でも募金を始めた。

▶アイク、平和への旅（9月1日）フルシチョフの訪米を控え、アイゼンハワー米大統領が独・英・仏を歴訪。写真はチャーチルと懇談するアイゼンハワー（右）。

◀日本最大の高炉完成（9月1日）八幡製鉄戸畑製造所で、先端技術を駆使した高炉が完成した。日産1500トン。「鉄は国家なり」と需要増加への備えが進んだ。

昭和34年9月

1（火）●八幡製鉄戸畑製造所で第一高炉が稼働開始。●日本とルーマニア、国交回復交換公文に調印。
2（水）●製氷店の二六％で量目不足の氷を販売、と都の取締り結果。
3（木）●ソ連大使館で、小児麻痺用のソ連製ワクチン二万人分が新日本医師協会に贈られる。
4（金）●全日本官公職労協議会（全官公）、結成。●東大自治会、造兵学科設置問題で茅学長不信任投票を開始。
5（土）●癌患者の七六％が四〇歳以上、と厚生省調査。
6（日）●パン・アメリカン航空太平洋線第一便羽田へ。
7（月）●前首相・石橋湛山、周恩来の招きで訪中。
8（火）●日教組、勤務評定反対の第二次統一行動。
9（水）●世界一周早回り飛行に挑戦した作家の曽野綾子ら、六〇時間五五分で羽田に帰着。
10（木）●福岡で炭鉱失業者救済の「黒い羽根」募金開始。
11（金）●大蔵省、米ドル売買自由化の細目を発表。
12（土）●小澤征爾、ブザンソン国際コンクールで一位。●東京池袋の西武百貨店屋上に世界一のヘリポートが完成し、開港式。
13（日）●神奈川県の城ヶ島大橋、完成。
14（月）●ソ連の「ルナ2号」、初の月面着陸に成功。
15（火）●総雇用者中、女性が三分の一超と労働省発表。●静岡県三ヶ日遺跡の人骨は十数万年前と鑑定。
16（水）●社会党西尾派、社会党再建同志会を結成。
17（木）●繁華街の土地評価額の最高は銀座三愛、と東京国税局が発表。
18（金）●大阪に成人病専門の府立成人病センター開設。
19（土）●御殿場市で国立中央青年の家の開所式。
20（日）●長野市で本を読む母親の全国大会、開催。
21（月）●在日朝鮮人の北朝鮮帰還申請の受付を開始。
22（火）●日本ビクター、初めて飛行機を貨物専用に使い、西独へラジオを輸出。
23（水）●広島高裁、八海事件の差し戻し審で無罪判決。
24（木）●藤沢飛行場に米U2型偵察機が不時着。
25（金）●東芝などで構成するミサイル研究のMS会、第一回理事会を開く。
26（土）●伊勢湾台風が中部地方横断、各地に大被害。
27（日）●四日市の大協石油工場で重油二〇〇〇トン流出。
28（月）●警察庁、台風便乗値上げを物価統制令違反で取り締まるように指示。●ねずみ大量発生の初島に熱海市から子猫輸送。
29（火）●通産省、初の『産業白書』発表。
30（水）●フルシチョフ首相、訪中（中ソ対立始まる）。

▲常磐線亀有駅の踏切で電車が横転（10月30日）立ち往生していたトレーラーに衝突し、脱線転覆。22人もの乗客が重軽傷を負った。狭いうえに「開かずの踏切」と悪評をかっていた問題箇所だった。

▶南海、巨人にストレート勝ち（10月29日）プロ野球日本シリーズ第4戦で、南海が3対0で巨人を下し初優勝した。南海の杉浦忠（写真）は全試合に出場、指を血で染めながら投げ抜いた。

▲カラヤンを隠し撮り（10月27日）カラヤンがウィーン・フィルハーモニーの指揮者として3度目の来日。到着当日から練習を開始したが、写真撮影はいっさい禁止。こっそり撮った1枚だ。

▲村長選に約1000人が立候補（10月14日）人口約1万人の福島県中田村は、旧宮城村と旧御館村が合併して発足したが、2村はしばしば対立、少数派の旧宮城村住民がこのゲリラ戦術に出た。

▼芸術座で「がめつい奴」初演（10月5日）菊田一夫作・演出で三益愛子のほか中村扇雀（右）、八千草薫（左）らが出演した。270日間のロングラン公演となった。

昭和34年10月

1（木）●愛知県弥富町などの伊勢湾台風の被災者二万人が集団避難を開始。
2（金）●最高裁長官・田中耕太郎、全国の裁判所長官・所長合同会議で「裁判の威信守れ」と訓示。
3（土）●志賀直哉らが松川事件に取り組む広津和郎をねぎらう会を有楽町で開催。
4（日）●東京―青森線の全日空機で、定期便では初めて機上結婚式を行う。
5（月）●沖縄の保守三派合同し、沖縄自由民主党結成。
6（火）●水俣病有機水銀中毒説を、厚生省の水俣食中毒部会が中間報告。
7（水）●ラジオはあるがテレビのない世帯は七〇％、と朝日新聞の世論調査。
8（木）●東海道新幹線新丹那トンネルの鍬入れ式。
9（金）●米ヘリコプターが富士山頂に着陸。
10（土）●ニッポン放送、初の二四時間放送を開始。
11（日）●NHKが外国映画に初めて吹き替えを採用。
12（月）●日本、国連総会で経済社会理事国に当選。
13（火）●東京地裁、デモ規制の都公安条例に違憲判決。
14（水）●都教委、勤評拒否の小学校長らを懲戒免職に。●福島県中田村で、合併に不満の旧宮城村住民九三八人が村長選に立候補。
15（木）●南極の平和利用に関する南極国際会議、ワシントンで開催。
16（金）●福島県国見町で、熊に襲われ五人重傷。
17（土）●熊本県漁連、水俣病の漁業被害補償を新日本窒素に求め、工場前で集会とデモ行進。
18（日）●社会党再建同志会、社会党離党を声明。
19（月）●国連「児童の権利に関する宣言」が可決される。
20（火）●国道一号線の陥没部復旧に初のドラム缶工法。
21（水）●伊勢湾台風の農林漁業被害は一一五二億円と、農林省が発表。
22（木）●日本学術会議、初の『科学者の生活白書』発表。
23（金）●静岡県川奈港でイルカが迷走、三〇〇頭捕獲。
24（土）●霞ヶ浦一帯で、前月来五一人がワイル病発病。
25（日）●岩手県花泉でワカトクナガゾウのキバ発掘。
26（月）●ソ連、「ルナ3号」撮影の月の裏側写真発表。●重量挙げバンタム級の三宅義信、世界新。
27（火）●前首相・石橋湛山、岸首相の退陣が日中関係の改善に良策と発言。
28（水）●大蔵省と野村など四大証券、投資信託部門の分離を決定。
29（木）●政府、所得倍増計画を経済審議会に諮問。
30（金）●原水協、被爆者援護法の実現を決議。
31（土）●東京地裁、無許可公演で中村翫右衛門に有罪。

▶三井炭労、美唄で雪中のデモ（11月27日）人員整理反対の決起大会の後、家族ぐるみの労組員5000人が雪の炭鉱町をデモ行進した。

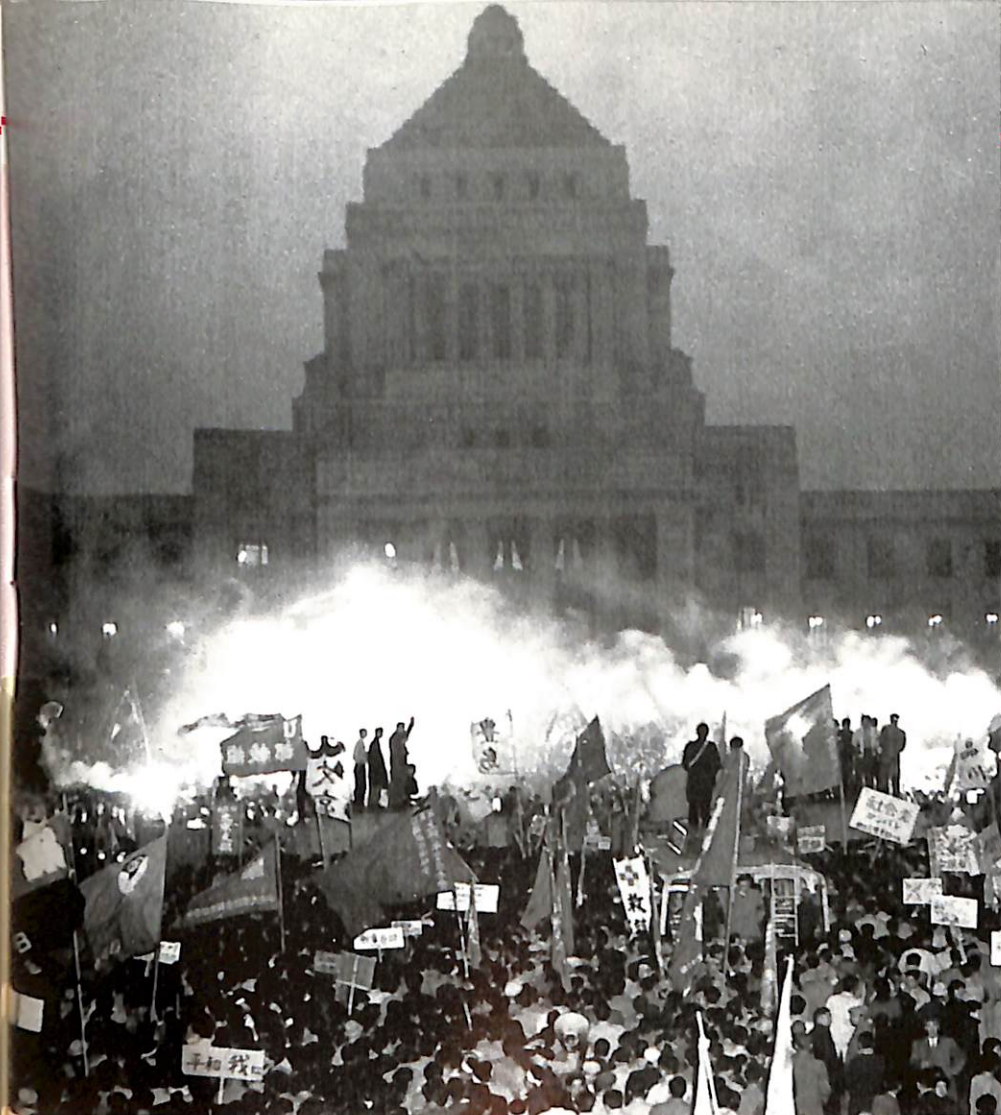
朝日新聞社

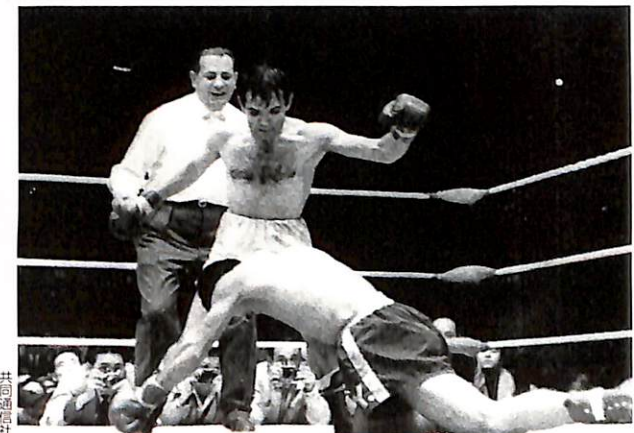
◀ブント全学連など国会突入（11月27日）安保条約改定阻止を叫んで国会周辺に集まったデモ隊約2万人が、国会構内になだれこんだ。

共同通信社

▼自衛隊の次期主力戦闘機ロッキードF104に決定（11月6日）いったんはグラマン社製に内定していたが、激しい競合と汚職騒ぎで、選定を白紙に戻していた。

朝日新聞社

▼矢尾板貞雄、沈む（11月5日）世界フライ級タイトルマッチが大阪で行われ、アルゼンチンのペレスが、13回ノックアウトで9度目のタイトル防衛に成功した。

▼冬季五輪3種目制覇の俳優トニー・ザイラーが来日（11月14日）松竹映画「銀嶺の王者」出演のためで、右は共演の鰐淵晴子。日本でのスキー・ブームの起爆剤となった。

▼「緑のおばさん」登場（11月20日）児童の交通安全と母子家庭救済を目的に、都内の通学路に配置。上野駅前での訓練風景。

共同通信社

昭和34年11月

1(日)●国民年金法施行。
2(月)●新日本窒素水俣工場内で不知火海沿岸の漁民らと警官隊が衝突する。
3(火)●小泉信三、里見弴、川端竜子ら五人が文化勲章を受章。
4(水)●国語問題協議会発起人総会。小汀利得、福田恆存ら、新送りがな反対で一致。
5(木)●汐留―梅田間にコンテナ専用特急が運転開始。
●車の保有は一三一人に一台、と『自動車白書』。
6(金)●国防会議、航空自衛隊の次期主力戦闘機をロッキードF104に決定。
7(土)●横浜市で京浜急行とトラック衝突、五人死亡。
8(日)●ソニー進出を「日本の通商脅威」と、英紙報道。
9(月)●元NHKアナの竹脇昌作、自宅で縊死。
10(火)●秋田市沖で日本初の海底油田の採油に成功。
●雪男学術探検隊、ネパールへ出発。
11(水)●琉球政府行政主席に沖縄自由民主党の大田政作が就任。
12(木)●豊作で輸送力が追いつかず、国鉄の滞貨一六〇万トンに。
13(金)●炭労大手一四労組、全山一斉二四時間スト。
14(土)●東証上場企業の決算、前期比で利益一六％増。
15(日)●朝鮮海峡で山口県の漁船を韓国警備艇が銃撃。
16(月)●兵庫県、県営競輪の廃止を決定。
17(火)●運輸相、岐阜羽島など新幹線中間駅設置認可。
18(水)●国民貯蓄一〇兆円突破記念スタンプが全国の主要郵便局で使用される。
19(木)●日本商工会議所など、貿易自由化に備え「日本貿易憲章」発表。
●自治庁が全国の町名・番地を整理、と新聞に。
20(金)●集団就職者のサークル「若い根っこの会」発足。
21(土)●前年の出火件数は三万六一七八件、と国家消防本部発表。
22(日)●国連総会、軍備撤廃の八二ヵ国決議案可決。
23(月)●山口県佐合島で初の太陽電池による灯台点灯。
24(火)●健康保険組合連合会、短期人間ドックへの健保適用を検討。
25(水)●社会党河上派の国会議員一二人が離党。
26(木)●総評、三池闘争資金に一億円カンパを決定。
27(金)●安保条約反対の二万人のデモ隊が国会に突入。
28(土)●朝日新聞労組、賃上げを要求しストに入る。
29(日)●関西馬丁労組のストで、京都競馬中止。
30(月)●厚生省ルバング島調査団、小野田寛郎元少尉らは五年前に死亡、と調査終了。

▲東京のスモッグ深刻（12月24日）自動車の排気ガスや工場の煤煙などで、都心はロンドンと肩を並べる深刻な事態となった。白いもやの向こうにテレビ塔が浮かび、左後方にやっと国会議事堂の姿が確認できる。

読売新聞社

▶北朝鮮帰還第一船が出航（12月14日）ソ連船2隻に分乗して新潟港を出発したのは、在日朝鮮人975人。12日には日赤センターによる帰還の意思確認が行われたが、変更者は出なかった。

朝日新聞社

▼水原弘の「黒い花びら」に第1回レコード大賞（12月15日）永六輔作詞、中村八大作曲で、数ヵ月で約30万枚を売り上げる大ヒット曲となった。日本作曲家協会が歌謡界発展のために設けた表彰の初回を飾った。

▲主婦と生活社争議（12月29日）2月15日からの無期限ストと、会社側のロックアウトで長期化していた争議がこの日、解決した。この間、150人にのぼる文化人が、執筆拒否などで組合側を支援した。

▶レッカー車登場（12月22日）警視庁の交通機動警邏隊に、全国で初めてレッカー車2台が配備され、警察庁前で事故車移動のテストが行われた。付設のクレーン装置は3トンのものまで引き上げられる。

12月

[illegible]●[illegible]研究グループ、核融合反[illegible]トロンAの試作品を公開。
●三井三池鉱業所、一四八九人へ指名退職勧告。
3(木)●東京陸運局、個人タクシー一七三人に許可。
4(金)●中国で元「満州国」皇帝・溥儀の釈放決定。
5(土)●現代の学生は夢はないが無気力ではない、と学生問題研究所が発表。
6(日)●東大自治会、手配学生を学内で死守と声明。
7(月)●中教審、養護学校設置の義務化を文相に答申。
8(火)●三池炭鉱労組、指名解雇反対の三万人デモ。
9(水)●自民党の資金源確保めざす自由国民連合発足。
10(木)●新島村議会、ミサイル試射場受諾を強行可決。
11(金)●横浜の第二京浜でトラック二台衝突。積載火薬爆発で死者四人、二百余戸に被害。
12(土)●防衛庁、東富士演習場で国産ロケット試射実験、と発表（地元抗議で一六日に実験中止）。
13(日)●「兼高かおる世界の旅」放映開始。
14(月)●初の北朝鮮帰還者九七五人、ソ連船で新潟から出港。
15(火)●第一回レコード大賞に水原弘「黒い花びら」。
16(水)●最高裁、砂川事件伊達判決（3・30）を破棄。
17(木)●新日本窒素と熊本県漁連、補償調停案に調印。
18(金)●炭鉱離職者臨時措置法公布、施行。
19(土)●日本動物園水族館協会、猛獣による事故防止対策を全国の五三動物園に通達。
●大気汚染研究全国協議会が発足。
20(日)●はしかによる死者がこの日現在一四七八人に。
21(月)●福岡県の三菱鉱業所でガス爆発。死者二三人。
●米財務省、日本の鉄鋼製品はダンピング法違反、と調査を開始。
22(火)●日本原子力発電、英GEC社とコールダーホール改良型原発の購入契約に調印。
23(水)●陸運局、タクシー乗車拒否に厳重処分と警告。
24(木)●自民党、国会周辺デモ規制法案を単独可決。
25(金)●ソニー、オールトランジスタ式テレビを発表。
26(土)●石川島播磨重工業、ホームヘルパー制採用。
27(日)●海運不況で輸出船契約は目標の半分と新聞に。
28(月)●広島原爆病院の死者がこの日で年間三八人に。開業以来最多を記録。
29(火)●選挙違反容疑の参院議員・鮎川義介父子、辞職。
30(水)●外務省、三五年一月に新安保条約調印と発表。
31(木)●日銀券発行残高、初めて一兆円を超え、一兆二九四億円に。

我楽多市

流行語
私の選んだ人を見て下さい

天皇家の末娘清宮貴子さんが、二〇歳の誕生日の三月二日、記者会見を行った。席上「皇太子のご結婚の後は宮様ですね。どんなタイプの男性がお好きですか?」と質問され、彼女は「きたな!」という表情をした。そして即座に答えた。

「私の選んだ人を見て下さい」

この当意即妙の答えに記者席は大爆笑。さらにこの会見はラジオで放送されたから、国民の間でも大変な人気を呼んだ。以後、彼女は〝おすたちゃん〟(皇室での彼女の愛称)と呼ばれて国民的なアイドルとなった。〝おすたちゃん〟が島津久永氏(元伯爵・島津久範氏の次男)との婚約を発表したのは、それからまもない三月一九日のことだった。

「ヨワイ」。当時の大スター、石原裕次郎が、できない、苦手という意味で連発、たちまち広がった。

「ファニーフェイス」。団令子、中島そのみといったあんぱん顔の女優が、ファニーフェイスと言われてもてはやされた。

▲全日空のスチュワーデスが、避難訓練。(1月11日)

ファッション
日本で初めて白い口紅が登場

昭和二六年、日本最初の天然色映画「カルメン故郷に帰る」が公開されて以来、カラー映画に赤い口紅はどぎつすぎるというので、撮影用にはピンクの口紅が用いられ、映画と同じ口紅が欲しいという女性のために、三二年頃、サーモンピンクやスノーピンクの口紅が発売された。

ところがこの年、いっきょに白い口紅が登場したのである。そしてこれが好評だったため、「口紅は赤」という常識は完全に打ち破られ、以後、コーヒー色からワイン系、さらにブルーやグリーン、黒までも口紅として登場することになる。

(『ファッションと風俗の70年』婦人画報社)

デマ・噂
軽石の粉末を飲むとおならが出る?

この噂の出所は、小津安二郎監督の「お早よう」。映画の中で子どもたちがさかんにオナラ競争をやる。軽石を削って飲むと、自由自在に出せるゾってわけで、連日服用。おデコを押せば、オートメーション式に連発するというストーリーだが、むろんフィクション。

軽石とガス発生の影響について医学的定説はないが、こうはいかないことは確かだという。

(「漫画読本」七月号)

CM100年

ラジオCM

「おもちも入ってベタベタと安くてどうもすいません――即席しるこ」(渡辺製菓)

教育
米七俵を納めれば、高校が卒業できる

〔花巻発〕岩手県花巻市の花巻農業高校笹間分校(定時制)では、生徒たちの家で予約売り渡しする米の代金の一部を学費として積み立て、米七俵分を納入すれば、高校が卒業できる制度を作ることになった。

それによると、生徒の家庭が農家である場合、農協に納めた米(雑穀を含む)の代金のうち、学費相当分を金額に換算して通帳を作るもので、米七俵を納めれば授業料からPTA会費、旅行の積み立てまで、卒業時までに必要な金はすべてまかなうことができるという。

(「朝日新聞」一〇月一三日)

▲白土三平の劇画『忍者武芸帳』(三洋社)もこの年刊行。

物価
やきいも屋を開業するために必要な資金

さつまいもの人気が復活し、やきいも屋が流行した。都内のやきいも屋は約三〇〇〇人。新規に開業するために必要な資金は、釜が六〇〇〇円、リヤカー(中古の場合)三〇〇〇円、いもの仕入代金などで、ざっと一万五〇〇〇円。屋台のレンタル料は一日一〇〇～二五〇円。

これに対し儲けは、いも一俵につき六〇〇円。一日に一俵くらい売れる。

美女倶楽部　伴田良輔・選

▲〝大人の総合誌〟「100万人のよる」の昭和34年2月刊別冊「世界裸か画報」に、こんな躍動的ヌードが。欧米の先達の影響を受けながら、日本独自のヌード表現を模索する時代の幕開きを飾る写真。撮影、中村正也。

三面記事
犬神様のお告げで教祖に

〔京都発〕妓楼の女将をしていた女性が世の人を救うために新興宗教を開き、教祖になった。

この女性は上田偉世といって昭和二四年、下京区七条新地の遊廓街に妓楼を構えた。もともと犬神様の信仰心があつく、妓楼を開いたのも犬神様のお告げによるとか。三三年四月までは接客婦一〇人を抱えて商売にいそしんでいたが、売春防止法施行で廃業。その後、再び犬神様のお告げを受けて「奉恩閣」という新興宗教を開いたもの。

「婦人代議士が赤線を廃止してエツに入っているのはケシカラン。痴漢はふえるし、安サラリーマンは遊べなくなってしまうではないか。旧式の赤線を復活するのは問題だが、健康で明るい赤線を再建すべきだ」

と主張し、現在三〇〇人の信者を持っている。

(「新関西新聞」五月二七日)

▶二月一六日、新しいデザインの五〇円ニッケル貨が発行された。

消防車を捨て値で売って、飲んでしまった人々

〔五所川原発〕一月初旬、青森県五所川原市で火事があったが、この火事で市の所有する消防車が〝飲み代〟に変わっていたことがわかった。

待てど暮らせど現場に消防車が来ないため住人が騒ぎ出し、市が調べてみたところ消防車は影も形もない。

もともとこの消防車は、同市と栄村が合併する前、栄村が持っていたものだが、この村には市長選で新市長が誕生したのをこころよく思わない人々も多く、新しい市に引き渡すくらいなら飲んでしまえと、捨て値で売りとばして酒代にしたらしいという。

(「東奥日報」一月二七日)

▲騒音をまき散らしながら、曲乗りをするカミナリ族。(9月15日)

巨大なサメの、胃の中から出てきたものは

〔日立発〕茨城県日立市で六月二四日午後、漁業組合所属の共栄丸(一一トン)が、沖合で重さがおよそ一五〇〇キロもある巨大なサメを釣り上げた。

さっそく解体してみたところ、ビックリ。腹の中から人間の腕らしいものが出てきたのである。さらに念を入れて胃の中のものを探してみたところ、次々に出てくるわ出てくるわ、背広が一着、手帳にメガネ、千円札が二枚、パイプとタバコなど男性用品のセットが続々……。

警察では手帳などの遺留品を手がかりに身元調べを始めたが、人肉はほぼ完璧に消化されてしまっているため、身長も人相もまったく不明だった。ちなみにこの人食いザメ、市場で二〇〇〇円で取り引きされ、釣った漁師はサメの胃の中から出てきた二〇〇〇円と、サメの値段の合計四〇〇〇円を手にした。

(「週刊実話」七月二〇日号)

データ
男女共学で、若者の性に対する関心が低下

性科学者の朝山新一大阪市立大教授の調査で、若者の性に対する関心が敗戦後よりも低くなっていることがわかった。男子高校生を例にとると、

●自慰経験率
昭和二三年　九〇%
現在　八〇%

●性交経験率
昭和二三年　二〇%(推定)
現在　五～七%

教授によると、男女共学の浸透により、心理的に性的感情が発散されているためという。

(「サンデー毎日」三月八日号)

▼デパートの屋上に作られた人工スキーのゲレンデ。(12月5日)

この年の初もの
イカの姿焼きを、函館の水産業者が考案

●種なしスイカ　山梨県農業試験場で偶然生まれた。

●テレビ用のリモコン・スイッチ　東芝から発売された便利もの。定価二万円。

●プラモデル、トランポリン　アメリカから輸入される。

世界の動き

フルシチョフ首相 13日間の“歴史的”な米国訪問

▲9月19日、女優シャーリー・マクレーンと談笑するフルシチョフ。前々日、首相は「共産主義者は悪魔じゃない。私のおでこに角なんかはえていないよ」と発言していた。マグナム

この年九月一五日、ソ連の首相が史上初めてアメリカの土を踏んだ。フルシチョフの訪米である。前年にニクソン副大統領が訪ソ、さらにミコヤン副首相が訪米してお膳立てをしていたが、フルシチョフを迎えた米市民の目は冷ややかだった。

ソ連ロケット月到達報道の翌日に、ワシントン入り

米ソ二つの超大国が軍拡にしのぎを削っていた一九五〇年代。世界を東西両陣営に二分した冷戦は、当初、米国の優位で推移していた。が、フルシチョフがモスクワの実権を握るや、ソ連の国力は急成長をとげ、軍事力も米国と拮抗。世界の運命は、大陸間弾道ミサイルで武装した両超大国の手の中に握られていた。

その最中、モスクワから米国に向けて衝撃的なニュースが打電されてきた。ソ連の第二号宇宙ロケットが月の表面に到達。月の表面にソ連の国章と「ソビエト社会主義共和国連邦、一九五九年九月」の文字を記したペナントが運ばれたのだ。米市民はこのニュースに苦い敗北感を味わい、ソ連の脅威に身を固くした。

フルシチョフが、米国ワシントン、アンドリュース空軍基地に降り立ったのは、その翌日の一九五九年九月一五日のことである。ソ連首相が米国を訪問したのは史上初のこと。まさに歴史的瞬間だった。

フルシチョフは満面に笑みをたたえながら、出迎えたアイゼンハワー米大統領と握手。儀仗隊を閲兵した後、胸を張ってこう語った。

「ソ連の国章を乗せた三九〇キログラムの容器は今や月にある。わが地球はこれだけの重さを失い、月が同じ重量を得たのである。私はいずれ米国もペナントを月に送るだろうことを疑わない。ソ連のペナントは月の古い住民として米国のペナントを歓迎するであろう」

勝ち誇ったソ連首相のこの言葉に、米市民は歯ぎしりした。実際、空港から宿舎に向かう途中、フルシチョフを迎えたのは、沿道に集まった二〇万人の米市民の冷たい沈黙でしかなかった。

そもそも訪米のきっかけは、半年前にフルシチョフ首相が突きつけた西ドイツに駐留する占領国軍撤退の最後通牒だった。この事態を収拾すべく、アイゼンハワーが訪米を要請。フルシチョフがこれに応じてこの日を迎えたのだ。

両者とも最大の目的は、東西緊張の緩和。核戦争回避の道の模索にあったはずだった。そこへこの第一声である。米市民のフルシチョフに対する不信感は強まるばかりだった。

「一〇年ないし一二年後にアメリカを追い越す」

翌一六日からフルシチョフ首相はニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ、デモイン、ピッツバーグと飛び回る。その間、時には怒り、挑発し、そして持ち前のユーモアで笑わせ、次第に米市民の理解を獲得していった。

だが、アメリカ滞在中、フルシチョフは自分自身の発言にずっと悩まされ続けた。かつて、あるレセプションで西側の外交官に向かって「我々はあなた方を葬り去るだろう」と言ったと喧伝されていたからである。

全米各地を飛び回る直前の一六日に行われた記者会見の席でも、この発言の真意を問う質問が発せられた。フルシチョフは、自分はたしかにそういう言葉を言ったが、資本主義はやがて共産主義にとって代わられるだろうという意味で口にしたものだと説明した。だが、この発言は米国内の反共主義者に格好の攻撃材料を与えることになってしまったのである。

ロサンゼルスでは、こんな一幕もあった。その日、一行はハリウッドを訪問。シャーリー・マクレーンなどのスターたちに温かく迎えられ、カンカン踊りを見せられて大いに気をよくした。ところがその夜、ロサンゼルスのアンバサダー・ホテルでの歓迎会の席上、ポールソン市長が例の発言を引用して、「あなたは我々を葬らないだろうし、我々もあなたを葬らないだろう。しかし、挑戦されるなら我々は死ぬまで戦うだろう」と発言した

▲ワシントン市街をパレードしたフルシチョフ夫妻は、宿舎の迎賓館ブレアハウスに着いた。(9月15日) WWP

◀9月27日、ワシントンで別れの握手を交わす両首脳。WWP

外から見たNIPPON

『ドクトル・ジバゴ』と日本ペンクラブ

佐伯　修

「日本にきた目的は、日本という国の変り方をこの目で見るためだ。とくに、日本の伝統的な価値体系、たとえば家族とかセックスとか道徳とかいうものがどのように変ったか、また変りつつあるかを見たい。つまり〝菊と刀なき日本〟を観察したいのだ」（『朝日新聞』二月二六日）

『スペインの遺書』で、スペイン内戦下、共産主義者としてファシストに捕らわれた体験を書き、『真昼の暗黒』でスターリニズムの非人間性を厳しく追及した作家、アーサー・ケストラーは、この年の二月二四日に来日した。なお、彼は一般に「英国の作家」とされるが、ハンガリー生まれであり、後の『機械の中の幽霊』『ホロン革命』など、科学論や文明論も多く手がけている。

「日本ペンクラブ」は三月二日の総会に彼を招いて講演を依頼した。ところが講演予定日前日の一日、ケストラーは突如、同クラブの松岡洋子事務局長に宛てた公開状を発表、招待を蹴ったうえで、「パステルナーク問題」に対する同クラブの態度を批判した。パステルナーク問題とは、前年、昭和三三年の一〇月、ロシア革命を描いた長篇小説『ドクトル・ジバゴ』などの業績に、ノーベル賞が与えられようとした、ソ連の詩人ボリス・パステルナークが、『ジバゴ』を反ソ文書と決めつける同国政府の圧力で、受賞辞退に追いこまれた事件である。

この問題に対し、国際ペンクラブはソ連作家同盟宛てに抗議を行ったが、日本ペンクラブは積極的な行動を起こさず、言論の自由の擁護という原則は原則として、あまりソ連を刺激してはかえって事態を悪化させる、との態度をとった。

この態度に、ケストラーは「作家や詩人より『政治家や外交官』に近いセンスを感じ、その不純さに憤った。彼には、スペインでファシストから死刑宣告を受けた時、英仏のペンクラブなどからの抗議によって命を救われた経験がある。

ケストラーの公開状はセンセーションを呼んだが、日本側の態度は、竹山道雄らがペンクラブを脱会したことをのぞき、おおむね煮えきらなかった。逆に、彼に「反共作家」のレッテルを貼ったり、来日して日の浅い外国人に日本の特殊事情なぞわかるまいという声も出た。

ソ連で『ドクトル・ジバゴ』が陽の目を見たのは、それから二九年後のペレストロイカの下でのことである。今日から見ればケストラーの言論の自由に関するスジの通し方は、あまりにもまっとうであった。

▶イギリス安楽死協会会長でもあったケストラー。

のだ。フルシチョフは、不真面目な態度で自分を迎えるならすぐにも帰国すると、顔を真っ赤にさせて激怒した。

アメリカのマスコミも、けっして好意的ではなかった。九月一八日に、フルシチョフ首相は第一四回国連総会で演説し、完全軍縮を提案する。だが、この演説をアメリカのマスコミは〝非現実的〟と一蹴した。

フルシチョフは最後まで米市民の対ソ不信感を拭うことはできなかったものの、キャンプ・デービッドにおける三日間の米ソ首脳会談で、翌年に英仏首脳を交えて首脳会談を開くことに合意。ドイツ駐留中の占領国軍撤退の最後通牒も取り下げた。また、結果的には実現しなかったものの、アイゼンハワーのモスクワ訪問も決めて雪解けムードを醸成した。

帰国直前、フルシチョフはNBCテレビを通じて五〇分にわたって〝お別れ演説〟を行い、繰り返し共産主義の勝利を力説した。

「あなた方のお国の数字は資本主義世界の業績の最高を示している。が、わが国の工業発展の年平均率はアメリカの三倍から五倍も高いことを忘れないでいただきたい。これによって、今後一〇年ないし一二年間に我々は総生産高でも人口一人当たりの生産高でもアメリカを追い越し、農業面ではそれよりずっと前にこれが達成されよう」

強気一辺倒の発言だが、西部旅行の終わりには、「資本主義世界の奴隷たちは、なかなかいい生活をしている」と、ちょっぴり本音らしい感想を洩らしてもいた。

フルシチョフが米国を追い越す国になると確信していたそのソビエト社会主義共和国連邦も、すでに消滅。旧ソ連邦の各地に泥沼の内戦と慢性的な飢えがはびこっている。

フルシチョフ（1894～1971）
旧ソ連の政治家。クルスク県の炭坑夫の家に生まれ、一九一八年、ロシア共産党に入党。ソ連共産党第二〇回大会（一九五六年）でスターリンを批判し、世界に話題を投げかけた。二年後首相に就任し、一九六四年失脚。著書に『フルシチョフ回想録』がある。

▲ホット・ドッグを手にして。庶民の生活にじかに触れようとする首相。

WWP

▼9月23日、アイオワ州のトウモロコシ農場を視察。

WWP

往きて還らぬ

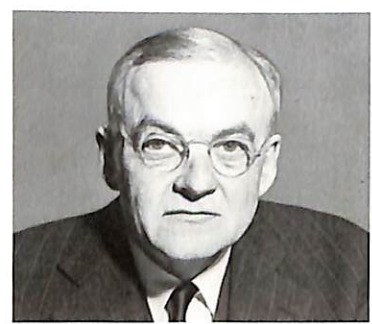
▲3月7日　鳩山一郎（76）
元首相。昭和31年10月、第3次鳩山内閣の時、日ソ国交回復を実現。鳩山由紀夫、邦夫両代議士の祖父。

▲3月26日　レイモンド・チャンドラー（71）
米のハードボイルド作家。45歳の時、『脅迫者は撃たない』でデビュー。『湖中の女』『長いお別れ』などがある。

▲4月8日　高浜虚子（85）
俳人。正岡子規の影響で俳句を志し、定型（五七五）調の花鳥諷詠を主張して昭和俳壇のリーダーとなった。

▲4月9日　フランク・L・ライト（89）
アメリカの建築家。環境との調和を重んじたライト式建築で知られる。大正5年には、旧帝国ホテルを設計した。

◀4月30日　永井荷風（79）
谷崎潤一郎と並んで、耽美派の旗頭と目される作家。『濹東綺譚』など、官能的な作品を数多く残した。約40年間におよぶ日記『断腸亭日乗』を書き継ぐ。

共同通信社

▲5月24日　ジョン・F・ダレス（71）
アメリカの元国務長官。強烈な個性と行動力で、冷戦時代の自由世界をリードし、〝ダレス時代〟を築いた。

▼7月12日　中村時蔵（64）
歌舞伎俳優。当代きっての女形と言われ、特に世話女房を得意とした。俳優の萬屋錦之介、中村嘉葎雄の父。

WWP

▲7月17日　ビリー・ホリデー（44）
米のジャズ歌手。幼児虐待、レイプなどの体験を経て歌手に。最高の黒人歌手と言われた。代表曲は「奇妙な果実」。

▲8月14日　五島慶太（77）
元東急電鉄社長。鉄道省の課長から民間に転じ、一代で東急コンツェルンを築き上げた。

▲10月20日　阿部次郎（76）
哲学者、東北大教授。大正3年『三太郎の日記』を出版。その真摯さや理想主義が若者に大きな影響を与えた。

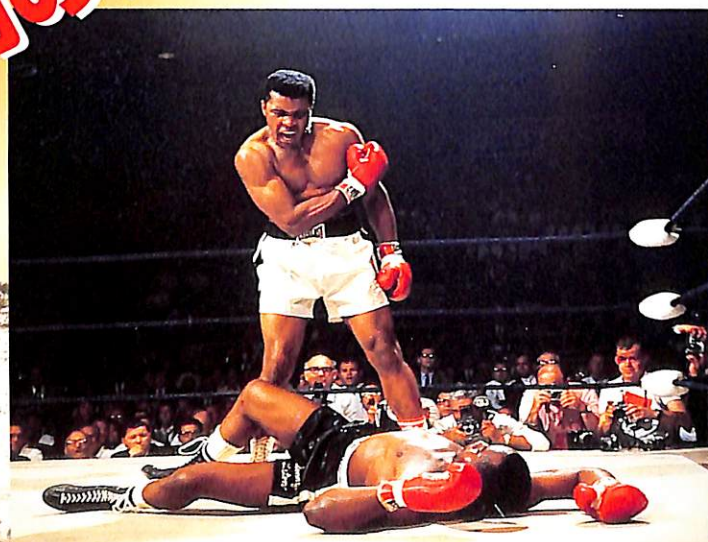
▲11月9日　竹脇昌作（49）
ディスク・ジョッキー。独特の甘い声で〝マダムキラー〟と呼ばれたが、ノイローゼで自殺。俳優・竹脇無我の父。

▲11月25日　ジェラール・フィリップ（36）
仏映画俳優。個性的な演技で知られ、「花咲ける騎士道」「肉体の悪魔」「モンパルナスの灯」「赤と黒」などに主演。

共同通信社

▲12月7日　久邇朝融（58）
皇后（現・皇太后）の実兄。戦後、皇籍を離脱。結婚相談所を作ったり、〝久邇香水〟を売り出して話題に。

平野雅章提供

▲12月21日　北大路魯山人（76）
陶芸家、書家。書家として世に出たが、美食追究のために陶芸を手がけ一家をなした。不遜な言動でも知られた。

ミニ事典

1959年のキーワード

保護センター

酔っ払いや家出人を保護するための施設。刑事被疑者と同じ留置場では急増する事態に応じきれないため、警視庁が二月一三日、二ヵ年計画で全国一〇大都市一四ヵ所に新設すると発表。後に「トラ箱」の呼び名の方がなじみ深くなった。

浅沼発言

北京を訪問していた社会党書記長・浅沼稲次郎が「アメリカ帝国主義は日中両国人民の共同の敵」と発言した事件。三月九日、中国人民外交学会の挨拶で述べたもので、自民党の抗議を社会党は党内干渉であるとして黙殺。この発言には右翼団体なども猛反発し、翌昭和三五年一〇月の浅沼刺殺事件の遠因となった。

共同通信社

▲北京で周恩来首相（右）と会談する浅沼稲次郎。

伊達判決

米軍立川基地に労組員ら七人が侵入した砂川事件に、東京地裁の伊達秋雄裁判長が三月三〇日、米軍駐留は違憲であるとして、全員無罪とした判決。しかし一二月、最高裁判所はこの判決を破棄、昭和三八年一二月に再上告を棄却したため、七被告全員の有罪が確定した。

図書選定制度

文部省が小・中学生を対象とする本から良書を選び、学校・公民館に推薦しようとした制度。四月二〇日から選定受付を開始したが、日本書籍出版協会、日教組、学者などから、言論出版の自由を侵す、図書検閲の復活だなどの批判を受け、断念した。

那珂湊沖米軍射撃訓練阻止

茨城県那珂湊沖の米軍爆撃演習場海域で、五月一五日、米艦二隻を漁船約二〇〇隻が包囲する事件が起きた。同海域に射撃訓練用の標的の設置を申し入れていた米軍が、この日、設置作業を強行したため、漁場を失う危機を訴えていた地元漁民らが阻止行動に出たもの。この結果、漁民らは設置の変更を達成する。

ブント全学連

ブントとは日本共産党と対立する全学連で「共産主義者同盟」の略称。六月八日、東京の品川公会堂で開催された全学連第一四回定期大会で、共産党系を制して、委員長・唐牛健太郎らを新執行部にすえ、ブント全学連を誕生させた。また、安保条約破棄、全国ストの過激路線を決定、翌年六月の国会突入へと走る。

姉妹都市

国際親善のため都市が他国の都市と提携すること。六月二三日には京都市と米国ボストン市が姉妹都市結成式を行い、ボストン市内のホテルに両市長、関係者約八〇人が参加した。日本では昭和三〇年一二月に長崎市と米国セントポール市が提携したのが最初である。

◀記者団に囲まれる伊達秋雄裁判長。

共同通信社

安保問題研究会

岸信介内閣の日米安全保障条約改定の方針に反対する清水幾太郎、家永三郎ら学者・評論家・文化人が結成した研究会。七月七日、東京の神田で第一回会合を開催、約一〇〇人の支持者を集め、以降、安保改定は日本を再び戦争に巻きこむと主張し、藤山外相に公開質問状を発するなど、さまざまな形で反対運動を行った。

山岸会事件

三重県警察本部は、不法監禁などの疑いで世界急進Z革命団山岸会の本部らを捜査に乗り出し、七月一〇日、幹部ら七人を逮捕した。山岸会は「我欲を捨て、我人と共に繁栄せん」という山岸イズムを唱えて支持者をふやしていたが、全財産の献納、精神に異常をきたすものが出るなど、社会問題化した。

朝日新聞社

▲養鶏講習会に集まった山岸会の受講者たち。

在日朝鮮人帰還に関する協定

帰国を望む在日朝鮮人の帰還実施を定めた協定。八月一三日、日本・北朝鮮両赤十字代表によりインドのカルカッタで調印された。これで在日朝鮮人の本国帰還がようやく実現することになった。韓国政府は北朝鮮を利する行為だと反発したが、一二月一四日、九七五人が新潟港を発った。

ザイル論争

井上靖の小説『氷壁』のザイル切断による転落事故の描写を契機に起こった登山用ナイロンザイルの強度についての論争。製造元から依頼された大阪大学教授はナイロンの強度は麻の四倍と鑑定、登山家グループがそれを否定したため論争となったが、この年八月三一日、結論が出ないまま、打ち切りが声明された。

若い根っこの会

東京に集団就職した地方出身者のためのサークル。高度成長とともに東京で働く若者たちの数はふえ続けた。同会は、彼らの交流の場の必要を感じた秋田県出身の加藤日出男らによって一一月二〇日に発足。「根っ子の家」の建設、機関誌発行など活発な活動を行った。

炭鉱離職者臨時措置法

炭鉱不況で生じた失業者の緊急対策を定めた法律。一二月一八日公布・施行。高度成長による技術革新やエネルギー転換の影響を受けて、石炭産業では三池炭鉱が大量退職勧告を行うなど、人員整理が相次いだ。そのため政府は、離職者の生活を援護する機関の設置、自治体の就労対策事業への国庫補助などを急いだ。

国会周辺デモ規制法

国会周辺での集団示威行動を規制する法律。一一月二七日、ブント全学連を先頭にした安保改定阻止国民会議のデモ隊約二万人が国会構内に突入し、座りこんだ。この事件を契機に自民党が立法化を企図。一二月二四日には衆議院で単独強行採決したが、参議院で審議未了となった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1959

CONTENTS

●編集

講談社総合編纂局

アート・ディレクター 山口至剛

表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一

本文レイアウト デザインオフィス八起き

編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力

影山光洋 熊谷元一 桑原史成 田中真知郎 中村正也 野上透 平野美津子 平野雅章 松本徳彦 吉田利雄 朝日新聞社 岩手日報社 沖縄タイムス社 共同通信社 光文社 時事通信社 新華社 タス通信社 中国通信社 毎日新聞社 マグナム 読売新聞社 WWP 大映 東宝 (株)東和商会 トヨタ自動車 にっかつ 日産自動車 宮内庁 国立西洋美術館 NASA

「日録20世紀」20号までの刊行スケジュール

(毎週火曜日発売。変更になる場合もあります。なお、刊行日は首都圏基準です)

創刊号(2月18日号)**1959**[昭和34年] **2月4日発売**●世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の"歴史的"訪米

第2号(2月25日号)**1964**[昭和39年] **2月10日発売**●東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

第3号(3月4日号)**1945**[昭和20年] **2月18日発売**●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆！死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

第4号(3月11日号)**1970**[昭和45年] **2月25日発売**●三島由紀夫、割腹自殺！● EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

第5号(3月18日号)**1963**[昭和38年] **3月4日発売**●ケネディ暗殺事件！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた"昭和の巌窟王"

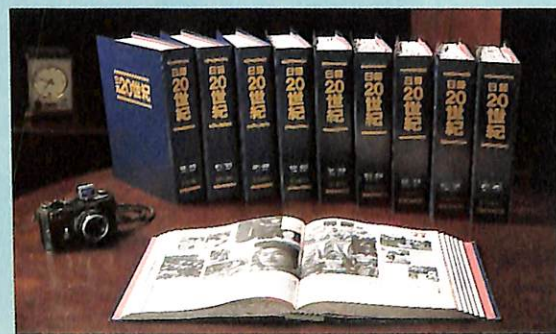
第6号(3月25日号)**1958**[昭和33年] **3月11日発売**●巨人軍・長嶋茂雄デビュー！●若者にロカビリー旋風●流通革命！スーパー・ダイエー1号店●ド・ゴール、仏大統領に就任

第7号(4月1日号)**1972**[昭和47年] **3月18日発売**●連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の"乾杯！"●27年ぶりに沖縄が日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪の流血

第8号(4月8日号)**1980**[昭和55年] **3月25日発売**●山口百恵が引退！●ついに日本車の生産台数が世界一に●衝撃の金属バット殺人事件と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

第9号(4月15日号)**1976**[昭和51年] **4月1日発売**●角栄逮捕！政界に激震●山下家に五つ子ちゃん誕生●サービス革命！「クロネコ」走る●毛・周死去、文革がようやく終わる

第10号(4月22日号)**1989**[平成元年] **4月8日発売**●昭和天皇ご大喪！●吉野ケ里発掘と邪馬台国論争●消費税3パーセント、混乱と不安のスタート●中国で天安門広場の惨劇

▶**第11号**(4月29日号)**1960**[昭和35年]**4月15日発売**
"安保"で騒然●所得倍増計画発表●松本清張ブーム●アフリカ独立国続出
▶**第12号**(5月6日号)**1961**[昭和36年]**4月22日発売**
ケネディ、大統領就任●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正熙、権力握る
▶**第13号**(5月13日号)**1962**[昭和37年]**4月28日発売**
「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●ＹＳ11が翔ぶ●キューバ危機
▶**第14号**(5月20日号)**1965**[昭和40年]**5月6日発売**
沖縄とベトナム戦争●日韓基本条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶**第15号**(5月27日号)**1966**[昭和41年]**5月13日発売**
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革
▶**第16号**(6月3日号)**1967**[昭和42年]**5月20日発売**
ツイッギー来日●美濃部都政スタート●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶**第17号**(6月10日号)**1968**[昭和43年]**5月27日発売**
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶**第18号**(6月17日号)**1969**[昭和44年]**6月3日発売**
日本、ＧＮＰ世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶**第19号**(6月24日号)**1940**[昭和15年]**6月10日発売**
配給制、回覧板と統制強化●日独伊三国同盟●紀元2600年祝賀●パリ陥落
▶**第20号**(7月1日号)**1941**[昭和16年]**6月17日発売**
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる

「現場」を歩く　山本徹美

原潜「シードラゴン」寄港に揺れた佐世保埠頭

あの「現場」は、今どう変わっているのか。地元の人々は、あの事件をどうとらえているのか。日本全国の「現場」からの現状レポートです。

外から見たNIPPON　佐伯修

リースマンが見た日本の大学人

欧米に追いつけと走り続けてきた日本の20世紀を、外国はどのように見てきたのでしょうか。1964年、アメリカの社会学者リースマンは、日本の大学人のあり方に厳しい評価を下しています。その年の海外からの発言を紹介する"辛口日本論"です。

証言・あの日この日　坪内祐三

日記や手紙は、その時々の肉声を伝える貴重な資料です。事件や社会情勢について著名人がもらした感想を、ご紹介します。この年は、作家の高見順氏と小林信彦氏の日記から。

俄楽多市

三面記事の紹介や、流行語・ファッション・風俗情報などを満載。思わずニヤリとできる雑学ページです。

往きて還らぬ

その年の、内外の物故者をしのぶページです。1964年は、4月5日にマッカーサー元帥が亡くなっています。

ミニ事典――1964年のキーワード

その年の出来事に関連するキーワードを選び、解説を加えました。20世紀の用語集として、ご活用下さい。

第2号[1964＝昭和39年]内容案内

(誌面構成は各号共通です)

スターと名場面

「アンコ椿は恋の花」で都はるみデビュー

かつて見た映画、憧れたスター、そしてナツメロ。この話題になると、誰でも会話がはずみます。その年の生んだスターやヒット曲、映画、芝居、ＴＶ番組などで綴る"芸能グラフィティ"です。

特集

日本、金16・銀5・銅8！東京五輪開催
新潟地震でわかった産業都市の"もろさ"
大量・高速輸送時代！「ひかり」4時間で走る
キング牧師、35歳でノーベル平和賞

毎号、4つのテーマを選んでお送りします。まず巻頭には、その年を象徴する事件・人物を。1964年は東京五輪。日本活躍の秘密に迫ります。第2特集は、年間最大の事故・災害を中心に。新潟地震で、初めて「液状化現象」が問題となりました。第3特集は、生活情報です。新幹線のスタートとその影響をレポートします。最後に世界の動きから。この年、キング牧師がノーベル賞に輝きました。差別と闘い続けた彼の生涯を追います。

女たちの肖像　稲葉真弓

ベストセラー『氷点』と三浦綾子

20世紀、各界での女性の進出にはめざましいものがありました。彼女たちを支えたものは何か、その活躍の陰にはどんなドラマがあったのかを、女流文学賞受賞作家が描きます。

美の出会い

172万人が魅せられた「ミロのビーナス」展

かつては美術に接する機会は限られていました。「ミロのビーナス」展に172万人もの人が集まったのも、そうした事情によるものでしょう。美術品だけでなく、パッケージやポスター類まで、日本人の心を魅了したあらゆる美を、その時代背景とともにご紹介します。

ニュース・ファイル1964

フォト＋日録で再現する366日

1年365日(1964年は閏年なので366日)の出来事を一覧できる「日録」と、約70点の写真で構成しました。その年のすべてがわかります。あなたのお誕生日にどんな事件が起こったか、調べてみませんか。

勝者・敗者　阿部珠樹

王貞治、55本目の本塁打

勝者の喜びと敗者の悲しみ――人がスポーツに心ひかれるのは、単に勝負の行方だけでなく、両者が交錯するところに浮かび上がる人間模様によるのでしょう。気鋭のライターがお届けするスポーツ・コラムです。

モノ語り'64

ティッシュ、「かっぱえびせん」などクセになるヒット商品

子どもの頃にオヤツで食べた「かっぱえびせん」、下宿暮らしで重宝した「つゆの素」、出張帰りの列車内で一杯やった「ワンカップ大関」……モノには、その時々の思い出がついてまわります。その年の話題の商品で綴る「モノ語り」。ヒット商品の秘密に触れながら、懐かしいあの日が帰ってきます。

人物クローズアップ

若者をとらえた"アイビー教祖"石津謙介

その年の話題を独占した"時代の寵児"を、毎号1人、当時のポートレートを中心に取り上げます。全100巻で100人。政治・経済から芸能・文化まで「日本の20世紀」を作った人々の総登場です。この年、若者たちの間で爆発的な人気を得たのが、アイビールックでした。"教祖"の石津謙介氏は、当時53歳。今でもそのダンディぶりは変わりませんが、なかなかの二枚目でした。

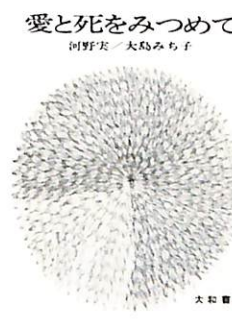
20世紀博物館　桑原茂夫

世界のカバン館(東京・台東区)

ＴＶでは"お宝"番組が人気です。一方で、企業や民間の博物館も続々開設。そこで、珍しい、楽しい博物館へご案内しましょう。この年は、世界のカバン館。逸品ぞろいです。

ベストセラー

映画、歌謡曲も大ヒットした『愛と死をみつめて』

ＴＶ、映画と出版のタイアップ、いわゆるメディア・ミックスは今や当たり前ですが、1964年のミリオンセラー『愛と死をみつめて』がその先鞭をつけました。吉永小百合主演の映画は大ヒット、青山和子が歌う主題歌はレコード大賞に。ベストセラーの書名から、その時代が浮かび上がります。

決定的瞬間

「ＬＩＦＥ」が特集した岡村昭彦のベトナム報道

20世紀は"写真の世紀"です。数々の決定的瞬間が撮られました。ここでは、その年、世界に衝撃を与えた1枚を掲載します。もちろん、「こんな写真があったのか！」というスクープも。5月4日、岡村昭彦氏は、ベトナム政府軍に拷問される若い農民の姿をとらえました。米「ＬＩＦＥ」も特集したこのカラー写真は、ベトナム戦争とは何なのかを、強く訴えるものでした。

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1959
●世紀のご成婚!
2月18日号
第1巻第1号 通巻1号
平成9年2月18日発行(毎週火曜日発行)
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
発売所
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03・3944・1295 (販売)03・5395・3604
特別定価290円
(本体282円)

雑誌 23703-2/18 T1023703020297
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社